雛遊

俳諧七部集

續安永

東都　清光樓藏

全二冊

○岩舟（イハフネ）　水をこのみて舟の字五句昨よ天璽（アマツシルシ）橋舟まで同一ノ怪（ケ）ニ和ハこゝを見るごとくおかしくてゆくすゑ

妻（つま）こそ物をのもそのみ日本紀（にほんぎ）にあり○伊勢（イセ）の神（かみ）　名ある伊勢の神ゆゑ猶伊勢鯉おのづからいせ白鰹（しらかつを）

もそこへ出（いで）るゆゑ一あるまでの神と出て伊セ出ス

○祈る神（かみ）　恋（こひ）ゆゑ仏（ほとけ）といのる山伏（やまぶし）のいのり同（おなじ）ふかき

○神宮（かみのみや）　名高（なだか）き神宮（かみのみや）伊セの神宮か我の神院（サイイン）

○神宮（かみのみや）　名高（なだか）き神宮（かみのみや）伊セの神宮か我の神院（サイイン）

所のこゝろ　傘（かさ）に神宮神院（かみのみやサイイン）ともいひて

伊勢かるたに一つてし○岩（イハ）　一座（ざ）二いひかけ一ツてとゝめて傘（かさ）に出（いで）一句（く）一ツの四の句（く）形

岩（イハ）一ツ又ゑ出（いで）一又ゑ出（いで）

[illegible]ゝみて一[illegible]絶(タツ)のこと矣[illegible]
二つの内し岩橋山[illegible]ゝ能ス石ゝきゝし[illegible]
絶(タツ)ゝ[illegible]
○いゝ[illegible]ゝ[illegible]
八幡(ヤハタ)のみこ[illegible]ゝ傘(カサ)中ゝ東(イテキ)
ゝゝ傘(カサ)ゝいけゝ放(ハナ)ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]

ふるふかうるまハさる七句略
云ハ同し句の内ニ而ハつゝてハ云ふるふ
○義（イワ）只二名ニ二傘ニ
名ニ一ツ上ニツく ○市（イチ）只二名ニ二市のミ句ニ而も同事
茶ニ傘ニ傘ニ市一名ニ一山
市の略ニ成ル ○庵（イホ）四代内ニ一ツ
ニ一ツ上ニツるう ○一歩當（イツキトウセン）半
宝の内 ○入逢（イルアイ）入の字ハ月の字ニ句略
一ツ ○妹（イモ）妻ハ句略
俚俗のうるう ○生死（しやうじ）連歌ニ
ニ句略ふ ○いさゝか（ヤヽカ）幼稚ニ出ル
○今れ（イマ）ハ ○いはゞ（イハヽ）
ふるふ ○歳（イク）日（カ）日次の内
ニ句略 ○いよ〳〵ふるふ句略

○いつれ（イツレ）ハ ○いさゝか（ヤヽカ）ハ幼稚ニ出ル ○いさゝか
ニ句略 ○いよ〳〵ふるふ句略
大五
の内 ○偽（イツハリ）れまゝ ニ句略
ハ ○いはゞ（イハヽ）ハ ○いさゝか（ヤヽカ）ハ幼稚ニ出ル ○いさゝか
ニ句略 ○いよ〳〵ふるふ句略
代古今集ホル ニツの内ニ ふるふ
古人ニ云ニ古事古風ホハ
○いはゞ（イハヽ）ハ ○いさゝか（ヤヽカ）ハ幼稚ニ出ル ○いさゝか
ニ句略 ○いよ〳〵ふるふ句略
傘ニ連ニ ○命（イノチ）ニ云ニ
又ニ句ニ ニツの内ニ ハ命ニ
ニ句ニ又ニ句ニ ○軍（イクサ）ニ
一ツ軍ニ傘ニ花ニ
ニ句ニ ○大（イヌ）ニ
一ツ ○糸（イト）ニ云ニ

まじし○いつまでも草 嫌ふなり○いろぐせん 此書なり
の事なり百韻に一句傘には上の句下の句ともに
ありて二句まじし句の中には又ならずまじし
ろ ○樓(ロウ) [illegible]の嫌く傘には二句なり○盧(ロ)路(ジ) とは庭の事を嫌なり
は 橋(ハシ) 只一字には二折を嫌傘には橋只二字は一句付ても一句
きらし一又うらは流(ナガレ)階(ハシ)にはまぎつのことしけれど
の内には以上六句ならでは[illegible]のがりなし
高階の事の うきたし ちる嫌なり ○濱(ハマ) 只二ツ名所を
云う ○橋姫(ハシヒメ) 人倫に[illegible]紙なり傘には名所に
なり 作るよりゆくなら姫之ツの内之
○柱(ハシラ) 一句所を嫌ひ但句体にもあらし 帆柱橋まじし
らの内に一髪(ハナ)もしらは名別なり
○場(バ) 四ツくらいもよみえて又二 ○羽山(ハヤマ)に 山の指折を嫌 姫の事の句嫌
まじし事なり嫌るも句嫌

川なる道ならは七句嫌傘には山五斗を ○葉守(ハモリ)の神
一[illegible]嫌の事は五斗なるまじし嫌を嫌なし
[illegible]の嫌 ○葉(ハ)[illegible]る[illegible]ら[illegible]の雪は花を嫌[illegible] 傘には[illegible]
雑なり [illegible]八之白云し傘には葉
のも[illegible]のを五句去之葉一名を四又之ふし[illegible]一以上 ○端(ハ)
五ツ[illegible]の中も一[illegible]又[illegible]のくる[illegible]なり
○[illegible](イ)[illegible] ○若(ナ)[illegible]し嫌 [illegible]の葉 四折の[illegible]を嫌の
二句嫌 [illegible] [illegible]
まで ○葉に云の葉と句嫌 ○花(ハナ) 四之[illegible]桜も句嫌
し[illegible]て[illegible] 傘には[illegible]の白桜め
[illegible]の[illegible]の[illegible] ○[illegible](ハナ)火(ビ) [illegible]
[illegible]桜の[illegible]は[illegible] [illegible]
より[illegible]く[illegible] ○花紅葉(モミジ) [illegible]
二句なり [illegible]
○花の散(チ)るに 梅[illegible]の折を嫌[illegible] ○[illegible]の香に 袖の香
[illegible]のちるは之句[illegible] 嫌を嫌

○花の匂ひ　細の香人の香七句さらふ　○花ニ横雲(ヨコ)　作句ニさらふ

さし[illegible]　花ハ[illegible]　○萩(ハギ)小鳥城(ミヤギノ)[illegible]田[illegible]治[illegible]

○花ニ[illegible]を嫌ひて[illegible]夜[illegible]　○[illegible]の姿(スガタ)[illegible]の細花[illegible]

[illegible]ニ二句[illegible]　○花皿(サラ)[illegible]八[illegible]式法ハ　○花の

[illegible]衣[illegible]の　[illegible]の時[illegible]の花を[illegible]

瀧(タキ)[illegible]の波(ナミ)　水辺ニ[illegible]花の[illegible]　○花[illegible]水辺[illegible]

[illegible]ハ二句[illegible]　○春の日　二永日一遅日一[illegible]

[illegible]　○花[illegible]にて[illegible]　○春風　二春[illegible]

又[illegible]一傘ニ春風二[illegible]の風[illegible]　○初の字　四[illegible]

二以上四ツ[illegible]

[illegible]　○蓮(ハス)　一[illegible]の[illegible]　○[illegible]の字[illegible]之加[illegible]の字[illegible]　○第一[illegible]

山[illegible]又[illegible]の[illegible]　○鼻(ハナ)　一[illegible]　○旭(アサヒ)[illegible]

又一[illegible]傘ニ日[illegible]

[illegible]句にて[illegible]　○[illegible]　○花を

○諱(イカリコト)[illegible]傘ニ日[illegible]二[illegible]　○[illegible]の日

[illegible]ハ永　○天の宮　東宮(トウグウ)[illegible]傘日[illegible]

日[illegible]

[illegible]ハ[illegible]之　○[illegible]の[illegible]　○花の

[illegible]　○[illegible]の[illegible]月の[illegible]　○[illegible]の雲[illegible]

○花やか　霞にも雪にも　二句に　○花筵(ムシロ)　山花にも云也　雨にも二句に

○花の都　霞之　○晴る(ハレ)　雨雲なとのはるゝ也　はれ同しく陰物の

さまざまハれ又陽気のはる人のきかひとしハ二句去　今日昭也

の云晴る月など時に云也　其外夕晴之俳諧二句去之と証

失るゝみへ月日のむらさき　○濱(ハマ)　庇(マビサシ)　二句去　二句に　きよ

字なきは二句之と　○云つかぬ　に家小家の事之

又陽のひかる春の[illegible]に似るとて云

今日なしハ春日の氷なとの句也　三句に　○葉を宿(ヤド)

春雨と非え　○初(ハツ)霜(シモ)　冬之春を嫌　蛤(ハマグリ)貝(カイ)　葉かくるや

句餅に嫌し　ひとつハ秋之　○入を

[illegible]　○[illegible]にも句に嫌　○針(ハリ)　針仕事之

水辺と嫌え　[illegible]

〇法師　法師・神祇・釈教・人倫にも嫌ふ

さし　○[illegible]

十一

花衣 ちごさし　○はやりうた　詞に詞にも句に嫌　○芭蕉(バセウ)　秋之　二季

芭蕉(シャウケ)　打とくて又是をしるしてハ　○原(ハラ)と云字　原之二

むかしを[illegible]云入てよし　二句去之

白えとハ葉(ハ)のかくとのはて也　[illegible]

[illegible]の葉を云ハ[illegible]初花ハ[illegible]

おりかへる　○遥(ハルカ)　二句去　○[illegible]にむつかしき

人ハ[illegible]　[illegible]句を嫌

(に)

贄(ニヘ)　神祇之生贄ニ二句之事の[illegible]云ハ名

別の事之傘に執犬ハ内裏又ハ神社などへ[illegible]

[illegible]を[illegible]云[illegible]の[illegible]の[illegible]

のまえハ[illegible]京都(ケイセン)の[illegible]に[illegible]

肥後(ヒゴ)　国守土師(ハジ)長濱(ハマ)より[illegible]

ますの[illegible]あるとえし　○庭火(ニハ)　神祇之冬之庭に

楽(カグラ)の[illegible]の[illegible]月に[illegible]

[illegible]ハ[illegible]季ハ冬之神祇にも嫌之

○庭 只二寺ニ一皇居ニ一庭の外ハ名ありとも
らかひなくとくべし 座訓のとほり
○庭ニ 御切(ミギリ) 拝(ツボ)のこゝろ
ありくを嫌 ○庭ニ 坪(ツバ)ハ 七句嫌 ○庭の脇(ワキ)
山ニ 山ニおきて帆又傘こ ○鶏(ニハトリ) 一句ニ一ところれの是行れも嫌らく但
山ニおきて二句去之 鶏ハ句数ニよりおなこは帆又傘に
まうれの是意あり ○尼(ニ) 公(カウ) 一尼(アマ) 一比丘尼(ビクニ) 一 ○賑(ニギヤカ) 賑(ニギ)ひ ありの
ぶかうけ京呉是之
朔二季是べし かぎらぐうえ 云 朔 ○句ひ ニ 嫌 香(カ)七句 ○ニ
人ニ銀なうらて二季是べし
ニ句りの下れ句 二季何是べし ニ嫌 ○西(ニシ) 二所方角 低(?)
又二ツも是べし ○錦(ニシキ) ニ もろこしに嫌 ニ嫌ミとろり嫌 ○西 ありど云なて
紅れそう仰て ゝ りみぢ錦へ傘こ 同じ
花なでハ称ありしまひ ろうまるゆへ句を継ぐ 付べし
色々とんなもてなされぎ ○荻(ニ)ある竹の子 八季と 抽拙ニ二句え是 おけへく

松なけ月吴ありけるとの
まれハあこし嫌 何も水辺と帆ハ ○入海(ニフカイ) 名所ニ 二句嫌 ○濁(ニゴリ) ニ濁 同字
の外 ○ こと句りのこと 約と云 ニ嫌 ニ句の
二句之 ○ ニ濁りよ ごれ 云 約足嫌 それ嫌ハ二句嫌之 ○ 二ごりの
句の内ニ金字れ事をハあるも 扨ニ内の ○場(ニハ)一ぐとし云
ちやうと表して一以上二之庭の字こ 文字句ニて八不嫌 場て一所
よあハかしもさならるなき 西を始るひちやうとあるて
(ほ)
墨(スミ) 一季一ハあみげし一墨仏一所ありと嫌 的(マト) ○
の何も星月等ハへうりよろしく ○洞(ホラ) 二堀(ホリ)二
わり面を嫌 ○穂(ホ) 四つてやや他ある秋之部 紙之藤の字ありて ありりよ
句ら始ハ二句去之 他ある表之志るのしまへの部ある字よ
○仏(ホトケ) 只二念仏 仏師 仏道 仏法 仏道 仏部なとの ○仏 二 同じ 如来
ともニ 内又二もくを 何れも折をさらふ
四嫌 ○蛍(ホタル) 傘ニおきて折をなくて二句(?)
おうへ 名 迦ニありて ○牡丹(ボタン) ぼうせ草 十 本白を ころ
この

門出そろ（ホトハキス）ま　学を借りて云ふこと　○郭公（ホトトギス）く杜鵑子紀（トケンシキ）ともいふ

○かゆるゝ云、細き針（ハリ）のごとくして二つ尾あり

附（ツク）ろ　○楯（オダ）形（ナリ）ともいふ　○干瓜（ホシウリ）

へてのかの字四ともいふ　○かの字（ソヘ）

○細江（ホソエ）名和（ナワ）ながの〜も著の細江（ホソエ）にいふ名和（ナワ）ども

へ（ヘン）急の字四ともいふ　○平家（ヘイケ）小家（さゝや）ともいふ　○経（ヘル）

四ともいふ　○郭公（ホトヽギス）　○酒屋（さゝや）　酒べやともいふ

○かの字（ヘン）一ともいふ　七日姓（ナヌカ）　○布袋（ホテイ）　大きなる人形（ニンギヤウ）

○帽子（ボウシ）小形（ナリ）なるを姓（セイ）

○新萱（ヘウカヤ）　勝（カツ）ともいふ　○紅粉（ベニコ）　口紅（くちべに）ともいふ

○新萱（ヘウカヤ）小形（ナリ）なるを二ともいふ

（へ）豊（トヨ）の明（アカリ）　中の辰の日の夜（ヨル）の字（ジ）ともいふ

日を紀（キ）小宴（エン）の字ともいふ　○年（トシ）　四ともいふ

小七日姓（ナヌカ）　○星（トラサトラ）小星（サトラ）ともいふ　○戸（ト）

八つ〜山分（ヤマワケ）ともいふ　○戸小二ともいふ

二ともいふ　○戸を明（ア）ともいふ　○戸小家（さゝや）ともいふ

七ともいふ　○戸を和（ヤワ）ともいふ　○戸小家（さゝや）ともいふ

戸ともいふ　○直宿（トイ）ともいふ

○苫葺（トマフキ） 居所ニ二句之 ○苫屋 居所之句四ニ絶スルゟ乃とはあるさ又とるべし
○苫ぶく船ニ用何く ○友（トモ） 二ツ人倚之供（トモ）るひ二句去る 物の友あるひハ朋友と去る
去しよそても四句去る 鉄の友も四ツの内之 ○殿（トノ） 町居ト上る殿とのどもの内ニまきる 二語ぬと名を云ハゞけそうも
代内之柄どうせし 宮殿（キウデン） 居上とらし去るべきよみ ○床（トコ） 去るく
て又四之 そのとでんはの宮ハ裏表ニ去一
座禅の床 寝覚の床 簗（ヤナ）筏（イカダ）ホの床 鳥鉄は床紅葉も
去らる絶ス有くようりハる床の宮七句姫 傘ニ床居
下ニ一句にハ物ニ一以上之ハ之去るニよそても床の字之し
床の山 床の浦乃内ニ一句とうくて去るべし
○床ニ ゆうしき二句也 ○木賊（トクサ） 木の字ニすべし ○鳥（トリ） 只二表の
鳥一 小鳥一 村鳥 きぎバの鳥一 酉一 何れも面をえて去一 傘を鳥 鳥一 秋北
只一表ニ一 小鳥村鳥ホの内ニ一句鉄と云ふ下げて一物などの鳥るき

孫の鳥ホ八鳥ぶ之 右四句之ハ宮鳥の鳥之 ○鳥甲（トリカブト） 鳥だくき去う 生類ニ不嫌
鳥紙の鳥くぐ去るニよみて又一以上五之
○鳥居（トリイ） 鳥の字 居の字 居ニ二句之 ○鳥の嘴（ナク） 不去も付句去し也 二句の鳴ならと何
○鳥の囀る 鳥の羽ぶる去らる絶ス ○とりくの去る 生類ニ去るこしを 嫌もの去ニ二句く
○虎（トラ） 一 寅 一 虎毛（トラゲ）の猫 又去一 傘ニ去る千句ニも一の物之
されハ俳ニハ物ハ物にぬ師人之去一
○鳥の嘴（ナク）ニ 鳥のさえずり鳥の去る ○泊船（トマリフネ） 此所鳥の字 ニハ二句之 鳥ぐし何れも七句也
○泊（トマリ） 水也 此所ハ泊 去とさそ、 ○燈火（トモシビ） 一法のしり 又一物籠 又去之し 傘ニ灯一物の灯
一法の灯 一国おニ 常灯 賤灯 籠 ○ともし 夜之折るも之 傘ニ
灯ともぐの内ニ又去し 以上四之 去の折ニ床をとる
るうくそりし 去三ワの外之 照射（トモシ）と ○遠柳（トホ）ニ ときのさ浅き
宍之灯の表ニ同字 の字付句去也 傘ハ

をの字○止にて筆あり〳〵傘より〳〵○遠て
ともよ二句略
ち 千早振 千の字三句ともの字二句略又四ツ
○千里 走ること ○路 道の字二句略
○中風 凡そ二句略 ○路 道ふみ〳〵ぬかるの字ハ二句ともに略
のれ印 傘ふ略 ○茸 ○塵 二ツの世ちりの
ち字おほし ○散 花ちりて又二ツ三ツ
一ツ〳〵 ○律の調 ○龍神 水辺に
○統率の滝 水辺に住人 ○里一里二里の里ハ
りんごのごとく里数をいふ時ハ皆家の形なり
ぬ 沼二 ○敵帝皇 ○主人 ○塗師 人�shita
主君と ○ぬ

○児 児ハ珠ちご楊弓の的ハ又ちごハ児ハ
ちごハ児ハ茶 ○茶 ○茶ハ二字ともに略
○塵 ○塵ハ二字ともに略 ○律の調 ○龍神 ○龍宮
水辺に住人 ○里一里二里の里ハ ○ぬ

○ぬるふ ぬるて二句嫌 ぬるしくハ不嫌 抽を○平ぬの ぬの字二句こぶのぬハ嫌 白ぬのも嫌
○濡(ヌル) 水にぬれてぬてのもの也嫌 傘にぬらし分縁を入て二句○ぬるみ 手ぶをハ二句きらふ
○縫(ヌイ) の事袖ふ抽ぬふ物嫌 ぬるしふ 袖かそその袂ハ七句嫌
(る) るての句 きらくハとらて定むて又 るての面二句去之○るこ流り 二句こそ嫌
うちこそひとれなどの手が余の字同し○るりん つうんぬうれのうまとハちらひ嫌る らん押らん次との類又座にて不嫌
(を) 囲(ヲカ) 是二条にて二傘に是以上之人の名字などハ云ても二句の内之○小野 二名所にて二 東地小町なし
四ツの内に折を入て嫌ふし傘に出也○遠近(ヲチコチ) 二ツまちと斗二 傘にてとなく嫌
二ツ之人の名字にもなりの内なり ハ二句
とうて一とちらてとえてみるときらをもちて
もなえしをちこちにをきちらさともに二句去り○迷日(ヲチ)

一去の白よ面と嫌○小舟(フネ) 一あまを舟一小也 ちいさきも一○小(サ)と小 二句去之○をしろ
のなどに 小の字 とれ小の字不嫌男康を 書ゆくことさとし又小の字付句嫌○女郎花(ヲミナヘシ) 一とをきべし 女女也不嫌
傘に女の字に折を嫌 女らしく六ハと入て今一ツを○をし孫(ヲシ) てのおく
一し男なし とえ芋子も元二乃うちこし
ソ孫のうちこ○とりのやくらし 床景○踊(ヲドリ) 盆之の内一景ふ一こ
極めて二句 生れのをどらむの
とうりハ折を○落葉(ヲチバ)の色(イロ) おち葉ハ冬なれ共色の字ふ云れて秋之○ところひ一
くてなし
おらるよ みえし○小(ヲ)小(サ) 針色を○音(ヲト)に 二句嫌 うえ之 ゑどき 夢ふ 句嫌信の ところ二
字となりてよむなよ○親(ヲヤ)に子 二句嫌○乙女子 小忌衣 来祇 にてよちて
是去にも二句きらふ
四ツし傘小女ハ出る千句ふも一の物なれハ二ツハなどゝし乙女のことハなど
同字なれ共面をえてもし 乞女郎為女にれを嫌め松女猫め大めとらの

これハ人麿か[illegible]ハ女[illegible]七句[illegible]し人麿か[illegible]ハ女房女[illegible]
あ[illegible]二ツハ[illegible]この[illegible]女の字多く[illegible]
に一ツて[illegible]○女にいとしむすめ○鬼(ヲニ)一わにけら[illegible]
[illegible]べし
肴[illegible]○おろか　述懐に[illegible]

㋻

○我君(ワガキミ)　天子をさしていふ大君[illegible]とも[illegible]人倫の部[illegible]○王(ワウ)に[illegible]の王の[illegible]
○王(ワウ)　四天王[illegible]
○和琴(ワゴン)[illegible]○和田(ワダ)の原(ハラ)　[illegible]田の字不[illegible]○和(ワ)[illegible]に
○別(ワカレ)を[illegible]二[illegible]三[illegible]○渡(ワタ)し舟(フネ)　川辺
○[illegible]○仮寝(カリネ)の夢(ユメ)[illegible]旅○恋の別れ[illegible]二句[illegible]恋の
旅の[illegible]二句[illegible]○別(ワカレ)に[illegible]二句[illegible]○[illegible]二句
[illegible]の字[illegible]

○纔(ワズカ)○従(マシ)[illegible]二句[illegible]○わさ田[illegible]二句[illegible]○別(ワカレ)に[illegible]二句[illegible]人の
[illegible]別[illegible]七句[illegible]
[illegible]の別[illegible]
○若菜(ワカナ)　[illegible]一[illegible]○若葉(ワカバ)一[illegible]に一[illegible]
○若衆(ワカシュ)[illegible]○腋指(ワキザシ)に　刀[illegible]
○鰐口(ワニグチ)[illegible]○藁縄(ワラビナハ)[illegible]六拾
○わすれ草(ク[illegible])[illegible]二句[illegible]○綿(ワタ)に
[illegible]○わすれ[illegible]二句[illegible]○[illegible]

㋕

○神(カミ)　只二[illegible]の[illegible]一名[illegible]の[illegible]一[illegible]に神[illegible]天[illegible]

○神に　神楽神子神主禰宜を嫌
傘と神と祢と神祭なと七句去之　○神無月に句去三

○神に　傘　みかりと云句嫌　傘に付ても不苦　○神と　神さひと云詞七句嫌　傘にみさひとは上久
と云古宅名所深山旅池なとの上かたひしき所と云なるへからす
み付ても不苦　玄社祭の名なと所をかみさひしいの神
四の内也上久と云時ハ
神祇の云嫌へし　花又　○うけらふ　新之うけらふの有る　夏之虫の名にして八雅も
傘てうけらふ強く成古今の所に夏又冬ふかゝやかしけうけらふ
のゆふ暮の日と成かしといふとよめるハ陽炎と云て夏の
日のあてられにをす時蟷螂のうへなとれちらしく眼まさしき
物と云まんかうと云虫を秋付と云之日本の國の名也
蜻蛉に似てあきつ蜻蛉也日本の名とあきつも蜻蛉
も皆うけらふ此名あれハ新之又蚊虫をうけらふと云ハ一所ならず
かしらうつくしきうつくしきれハ只作花去て夏を飛ちめくみ
えず陽炎の如くあくく消るやうなるさきうすかけらふとよめり

○闊水（かいつ）なる川
也の字付ても不苦　○川舟　旅に泊り入浦なとても一つなきらぬに舟
○神備（かんなひ）し　つきなと八神祇に嫌　木何も旅み泊る浪の川舟ハ旅ある
たは二句さしらふ　○神楽（かぐら）　あらか之名之傘
室なとノ一夜ものて神の門　には神ハ神なり又
なく一ハ上三つあり　○杜若（かきつばた）只一句よ花ト　○首途（かどで）に
門の字七句嫌出の字に　又をくしし　○から梚家（かが）只一所にて夫妻を居る
二句去也所々に付ても　これ家に世をかしふ
ともかる世のうきと　○春日（かすが）　春の字日の字なかかも不嫌
限あるへく同意也　　　歳月らはさし嫌
○門　四之まんと云ハ又二さくし　傘まりんと云之ても
ら上四の内にかきてそ之書なとに門の字也但とく
て一門出ハ上二をらもて門西と　○門よ　二王門山門門
嫌門なとに云時ハ門四の内より　あ本西と嫌
○かとへ　紅色や　杉の本にもて云句ハ墨秋之色とも云
字入て八嫌　秋にも用化ふく

○門は戸窓(マド)なとにて もちらさしあり ○垣(カキ) 見えまぎれ隔離(カクリ)其内也 ちかるおもむきにてやらし傘に
垣三つ之後の籬両方ハ嫌 ○垣ようらふ霧(キリ)のまぎれ ○かこふ 句亦まに ちるくするしふ 之
○かけろふ 是一去 川せみのかん同よ去る同し所迄を るいもくりの葉 詩く たなる かはよ
去る別式 ○上(カミ) 八くと人と伝わって又八ゝ秋ゟ表に一つまで
とく 去やしと云て又四つ之其口の虫ハ折を嫌ふこと
去年別と四手七句 ○枯(カレ)野 秋なり 之あの虫を嫌ひてハ但れも
去るなり ○狩(カリ) 去るもの 二獣ゟ二川ゟ一 其内也ゟ去る
みや□の狩 傘は仮名を嫌ふ 傘に
折をとらふ 狩人の 草ゟハ表に去る
狩(カリ)衣(ギヌ) もみぢ面 ○鳫(カリ) 去るに二秋に二季のうちなり 去るとも
○楓(カヘデ)を嫌 鳫去 て秋の 只るの 新しく
○蚊帳(カチヤウ) おふくし 傘にかゝ有て又 ○かさ 秋の字 ぐらく ゆ
蚊大ハ去くしくいやハ別のなり 折の

折之付句も折合之外嫌 傘に雪月の ○鐘(カネ) 去子一句一ツ 尺去るより
羽折や合の其を去て二つく折合之嫌 一去花一八去る
去之しより 折らる之 ○ かしまる 撫(カシ)ト云ふ
いそ鍋ハ去るとも 雁(カリ)ス ○ 燈(トウ)に 雲(ト)キ 雲(ユ)ヘ 去る 付句とこゝろふ
○風(カゼ)に 凡妙 凡嫌 ○かいこ 何も二句嫌 一去る子一ひよこみる
尺去 ○霞(カスミ) に二句去る 子の字にかいこ七句嫌 ○看経(カンキン)
二句去る ○風 おほちら 二句嫌 ○冠(カフリ) に萩の 花の 二句之風に 去る ひびき
去二句嫌其外凡雑ハ かくに 衣にも 鈍は 傘、冠去るとて
嫌傘よ風の字之句去 今一句よ 袖をとふむる ものの
袖付句斗とて嫌門のかぶり ○傍(カタハラ) に こゝろくしくかはしの ○方(カタ)に 片付て
冠木と云たるに句去し 片の字二句嫌 かたの ○錦(ニシキ)
片原(カタハラ) ○数(カズ)の字 二三より十まで八面を嫌去しくみ ○かざしの
不嫌 ありとも 一つ百千万京ハ折を嫌
去之衣嫌 花又去る之傘にかざし ○片身(カタミ) 岩根衣何れをもしくと云て
綰(ワガ)ね之踏(フミ)所に而所去るなり もとる折之片身に嫌る

なきおりも不嫌○かくふ津追なこの名の字二句○かくてこの之
傘に好る者自是　わかりも二句をよ
貌く所○笠カサ可く名之一挌の花笠一笠松一本とて○笠に嫌何の○うく
ふと花名りても何もたし何も折を嫌
りかるにてるる　大ニ二句之○かち栗クリ植物に非ス○迹カロス帰カヘル二句之比○竈カマド
大ニ○頭カシラの雪ユキ名は非ス何も地に○霞カスミは霧を借りても非之霞ハ秋
白嫌　非ス迷膝く
つよふふかん○影カゲ　景カゲ陰カゲ比ある清音之目ゲ人げハ○陰カゲに
て美之　亦之影の字ハ之句之之　霞ハ夏も嘉之比所は
もしきかれ○合戦カツセン一いふさふ○かふと云　緑言之こくいう
お二るえ　打を嫌　にと云ていやられき
やのれの詞○唐カラくうかれも二つ比ある打を嫌○霧ふ冬ふのとこひのうえ字
の名二句嫌　名をゆかこ田を嫌
二句○柿カキ只一名○刈田カリタ之地に二句之田とかる芦を刈るとぐらふ
くお一　くてかるべし傘に刈と云字お以て

二之名あのりハかに字を形に二の外にしやかくの名くの
るるとかる八三の門之人の物にいつしそ　ゆかこ白をさるふ
○かよふ立之一只二又凡水なるの○川のかもあ名に非ス○かわかし
かよふ石とくてまえ
高の雨かゆかに非ス○鰹節カツホブシ名に非ス外も○川
名の迹之○生れにあこてきるふ○うけ
の芦アシ隣家植物名迹所○蝙蝠カウモリ之非ス辛ふ○歌仙カセン人倫と非く名
二句あそう　仙といいども人倫之
○刀カタナ太刀小刀比ちわを嫌○鹿カをさして新之冬季
嫌葛脇刀ハうつくし
小泰の二世の王趙臣趙高キヤウシワカウよ我威を○かくろるとくと云詞
えんへる承とさしてるとえる古事之○
ぼぞうりてるる傘に和カルガ一るるふ一挌ひ一夜と非る平家
一巡上三之仏法論法ろどの名くてふハ字なこいろみをごし
○雛カタシロよとでゝふえて七句嫌傘ぐるのとくでて名
嫌るかこくぞてふくもるみ二句ちとの○悲哉カナシキと云

絹 二つ三つ迄ごし 傘句斗之て三之 ○買の字 迄ッ ○紙子 云れ ○蓑の
網 アミ 天之名迄之れ又 ○かと傘りに [illegible] セイダン 情の [illegible]
[illegible] 二句之 二句嫌 [illegible]
と云 ○かし傘とも云 網に句去
嫌

（よ）

金所 月に見て 二句嫌 只月さへ [illegible] 小え人の字 に 代
只二非代一傘に [illegible] 代一非代 [illegible] ○世 ヨ に代 ヨ 嫌 二句 ○世 只二
代し [illegible] トシ 以上 [illegible] 云 [illegible] 二只一以上 [illegible]
二仏の世二去、二海世 [illegible] 世 [illegible] 世の人 [illegible] 世前世 [illegible] 世八仏
世に [illegible]
世出膝の世 仏世 [illegible] ○夜 ヨ を待 マツ 月 [illegible]
[illegible] 六 [illegible]

○萩の文句に 嫌 ○萩 [illegible] 二傘 [illegible]

（た）

門 [illegible] ○よもぎ 蓬 ヨモギ [illegible] ○蓬
[illegible]
一 [illegible] 蓬萊 [illegible] 蓬萊 [illegible]
[illegible] ○齢 ヨハイ
老 ヨ 二句嫌 但 ○余 ヨ 所 ソ 只二去て二傘、○夜 ヨ の明られ
句 [illegible] ○ 二去 [illegible]
戸の [illegible] ○更よ [illegible] ○呼子鳥 ヨブコドリ 文
付句 [illegible] 嫌
傘に古今伝受の [illegible] ○よどもし 二 ジ 往 ジュ [illegible] 常住 ジャウジュウ のごとく世
の [illegible]
乃字を [illegible]
を [illegible] の [illegible]
大黒 ダイコク 非祇之傘 [illegible] ○高根 タカネ 子 [illegible]
一 [illegible] 一句の [illegible]

竹方面を始傘と云根○竹ことわざ○
根二山嶽二傘ホ山ごと云ふ○高の字ハつしかんむりを八の内し○玉ホ八心傘ごと
ホ名のう傾と○竹ホ名ごと云てよし○玉ホ別一字ごと云ふ○谷ホ二名あり二傘ごと云ふ
ホ上五し○玉ホ別一字ごと云ふ○谷ホ二名あり二傘ごと云ふ
戸ハ五ツの内し山ごと云ふ戸ハ七ツの戸ごと云ふ戸ハ谷の戸、面を始傘ごと云ふ
ホ銭と○竹ホ管弦ごと云ふ○竹ホ名ごと云ふ
○瀧ホ二名あり二名のごと○瀧山ごと云ふ川ホ竹ごと云ふ○竹の名
沢根ごと云ふ○竹ホ名ごと云ふ

七ツ○塔ホ二名あり一名ごと云ふ○相ホ斗ごと云ふ
○七夕ホ名ごと月日ごと云ふ○七夕一名ごと云ふ
七夕ごと天の川ごと云ふ傘ホ○田ホ田ごと云ふ
不始ごと云ふ○田ホ麻を始めて麻ごと云ふ○田ホ
一ドごと云ふ○田ホ麻を始めて麻ごと云ふ
ごと云ふ○玉にて本ホ稲ごと云ふ
傘ごと云ふ○玉の渚ごと云ふ○田に
傘ごと云ふ○玉ホ名ごと云ふ○田に
ごと云ふ○野山ごと云ふ○玉章

一ことば二句之○薫物（タキモノ）煮之物の字二句之○瀧（タキ）におとし所有付ハ花ハ付合三○竹（タケ）
駒（ムマ）生れ不嫌るゝ田をこすふ○田を作る雑之田を之て思をとハ非之○田にふみむれ丁と云
てらも五句嫌○立（タツ）田に立の字二句之因ハ三句嫌○こほりをさまる氷室（ヒムロ）両○立
田姫（タヒメ）名所を伺ふも但あつて之六用指三一○高砂（タカサゴ）乃松山部名所之○旅（タビ）の字
四之傘に有てよみてもれ以上三之○旅の都里ハ両八句の内にも去べし但在れとハ両を嫌○焚（タキギ）薪に
焼両○薪に樵（キコリ）まつ二句之○種（タチ）蒔（マキ）うつを嫌植物に有○橘（タチバナ）一花かもこきらハ
を嫌○焼火（タクヒ）有らんと此又若火もいわ火皆焼火之傘にいへと云詞二ツ斗おもひて嫌○たくれて
薪（タキギ）両七句○たくみ嫌在て嫌又傘に火と云字をあてと
三てより嫌云詞を嫌ひて八指ふそのかろく

○黄昏（タソガレ）誰の字タソガレ在に二句去り○たそかれタソガレ不嫌タソカレとそふれ嫌之○民（タミ）の
たみども居所を此又○明松（タイマツ）に火二句嫌○襷（タスキ）手助在也手に二句嫌○袂（タモト）
手に二句嫌袖に手八分も不嫌○丹（タン）和薬二句嫌○焼香（タキカウ）火二句嫌焼も同一○たぐさ云
詞の有○頼（タノム）有て二足二傘に旅の字五之○蛍れ松虫かるゞ
二句之内意の句に二三句も去一し
云詞有て嫌又戦も松虫といひて意あり○頼る頼ひて松の
云詞傘に松の字に二句去べし詞二つ去べし
○短冊（タンザク）有に両○堪（タヘ）に絶（タエ）る多く○たゞれ両手嫌
付句を嫌○大文字四之をかへて○大と大おいて嫌大名大
かり文て文四之○大和（ヤマト）天狗大木大丸
ホの○大しをあいたえて○大に年かもかも○太鼓一考
見之

○雁（カリ）二季とりて二句季を入て四つし　○こりぎ　あまりと申し候の字　こそより　その内なり

○たりき　古今のまとも清（スム）之事本と書てハの字中よりなる物と　あるもの

一説ニ入りを付て書てミえし　るようら　よあるに見えたり

こと候の字なり　何れもたしなし　つかひ　○尋（タヅヌル）すに　一さらさら　二句嫌

㊄連歌に　寄れをさしふ　○もん題（ダイ）にて　まされ　定らぬ

と申れ　きられるべき　○かつれし

下の句より二句之　○例（レイ）るりぬ　例ニ書か　はらいの（ハウライ）物のやうに書付ま

くまりなし　俳云（イヽ）こともおろ之　遠例（イレイ）不例なるを云　くむるまれ　斉ふまる

病（ヤマヒ）なるべく八句を嫌　儒（シヤク）を中にある云　病の名ハ二句さるまり

○乱（ラン）一乱ある私れらひなて　○暦（レキ）く　とまる　只一ツニ

又云なくて又一まし

㋺空（ソラ）ハ二句かけて　求天又るし　空ハ天又く　○そ面（ソトモ）

雲井なされ　二る　とまるなり

二句の字ハ七句隔傘ニ付の字ハ字去く付句ハ　○岨（ソバ）二傘ニ出

在ては不用之れハ去りて八句ハ字五句去り　ソバ　岨ニ寄ニ二まれ八

ころ　○其暁（ソノアカツキ）　弥勒（ミロク）の出世のうら　○園　笠生の二句く　傘ニ園　只二ツ

なり　茶（サ）ヱし　祇園（ギヲン）ホ　大きく打られ入　○空言（ソラゴト）　そらそらうびき　○袖（ソデ）の

なりの内なし　空言　のあれをかくて四まくし　袖の

濡（ヌレ）て　浪の上ハ波ニ二句　但雨ふかく　ぬれなる　○揺（ユラグ）に

凡二句　○ねこ川　なるニ極め二句人　御入れ之傘にて

ソヾク　ききらふ　めん思く　のとりれ　水とかふ袖へ

灑（ソヾク）に　出く　○そくじ　あまりめかたに　○袖の雨　袖のなかにて

又流水　二句なり　めみあるなり

大方涙の字之但俳也ニ仕立る句　寄ニ八涙に不嫌まて哀

あとり　ふし　波のまた　仕てて　くハ　哀なる　涙ハ二句

○導（ソビヘ）物（モノ）ま　松竹草ハ（?）二此煙もまの　○そ　一じり

ありまひの　煙ものの後を嫌　ごろま

のたぐひ ○存（ゾンズル）の字 二斗を一斗存（ゾンズル）なども同じ

○月うらの神 名のごとく月よみの尊（ミコト）なり ○月傘（ツキガサ） 一つ傘（カサ）ともいふ 月の表人偏に舟の如くなるつくりを表人偏に月をかきたるは表人偏に一をかきたるに同じ 一云月の八日の雲の中より一つ傘の出るを見て風雨ありと知るなり ○月代（サカヤキ） 額の髪を剃（ソル）ところ 月代（サカヤキ）の雲とは月代のごとくなる雲をいふ ○月日（ツキヒ） 月日（ツキヒ）の字 二句 ○月（ツキ）のさかり 月（ツキ）のさかりとは月の出る時分をいふ ○月夜（ツキヨ）茸（タケ） 月夜（ツキヨ）の晩に生ずるゆゑ名とす ○月毛（ツキゲ） 馬の毛色 ○月代（サカヤキ）剃（ソル） 月代（サカヤキ）を剃（ソル）ことなり ○月代（サカヤキ）雲 月代（サカヤキ）の雲（クモ）に同じ ○月日（ツキヒ）の雪（ユキ） 雪の字の中に月日の入りたるをいふ

のたぐひ ○存（ゾンズル）の字 二斗を一斗存（ゾンズル）なども同じ

○月うらの神 名のごとく月よみの尊（ミコト）なり ○月傘（ツキガサ） 一つ傘（カサ）ともいふ 月の表人偏に舟の如くなるつくりを表人偏に月をかきたるは表人偏に一をかきたるに同じ 一云月の八日の雲の中より一つ傘の出るを見て風雨ありと知るなり ○月代（サカヤキ） 額の髪を剃（ソル）ところ 月代（サカヤキ）の雲とは月代のごとくなる雲をいふ ○月日（ツキヒ） 月日（ツキヒ）の字 二句 ○月（ツキ）のさかり 月（ツキ）のさかりとは月の出る時分をいふ ○月夜（ツキヨ）茸（タケ） 月夜（ツキヨ）の晩に生ずるゆゑ名とす ○月毛（ツキゲ） 馬の毛色 ○月代（サカヤキ）剃（ソル） 月代（サカヤキ）を剃（ソル）ことなり ○月代（サカヤキ）雲 月代（サカヤキ）の雲（クモ）に同じ ○月日（ツキヒ）の雪（ユキ） 雪の字の中に月日の入りたるをいふ

○綱（ツナギフネ）舟 綱（ツナ）にて引（ヒク）舟（フネ）なり ○梶（カヂ）原（ハラ） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす ○梶（カヂ）の葉（ハ） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす ○梶（カヂ）の葉（ハ）の紋（モン） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす ○梶（カヂ）の葉（ハ）の紋（モン） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす

○綱（ツナギフネ）舟 綱（ツナ）にて引（ヒク）舟（フネ）なり ○梶（カヂ）原（ハラ） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす ○梶（カヂ）の葉（ハ）の紋（モン） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす ○梶（カヂ）の葉（ハ）の紋（モン） 梶（カヂ）の葉（ハ）の形（カタチ）に似（ニ）たるゆゑ名（ナ）とす

○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨乞（アマゴヒ）傘（カサ） 雨乞（アマゴヒ）の時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす ○雨傘（アマガサ） 雨（アメ）の降（フル）時（トキ）に用（モチヰ）ゆゑ名（ナ）とす

ん雲鶴の字にて三ツの内なり○雲鶴比林一枝柳に嫌ふ（雲鶴の紫雜之）○土筆に
付る八嫌え大かた季の字に一句を云ふる成ん但季のなきもなき句
なりば土の字筆の字も不嫌天ニ茎とも出べし
○翅ツバサ に 鳥翅同体に二句嫌
傘にも夢の字八五ツの内也て翅二之○常ツ子 比とも火 折ふし
一所八折ぬきよりて嫌ふ○雪の嫌けて と云ても飛ふるべし
○徒ツレ然に 嫌ふ也句嫌○徒く前 四折をへて可也
○徒ヨ來 植物又非く傘などかへわたと嫌 前うつらぬ八二句去之
むかうならず 不嫌○妻ツマ 一妻に一妻子などの字に二句之○筑ツク紫に
ても不嫌 妻きとなれ也 おくにとて 十ツヅラ 辻く
て四く○妻に酔すけらの 一妻とさらぬ○徒て 只二在をし一

○使ツカイ 人倫に非ス 尤大かたの使をなし 字もわれ八之傘に使
只二季の一又あるつひ無法つひ字の内又一季なし
○壷ツボ 茶毬キザイ 小して之植物ツバキ 相つく○椿ツバキ 難く花を むとびて
るし壷木八付かり
いまへ句なと八くじも去る
用傘に椿かたのなり○徒ぐ 何も云ても 四りなし
○徒然あ 只二在に一ツ○つめる二ならつくわを えてみ合く○綱ツナの
字ここさげな八三のかし 句れもわを嫌べし○徒らつて 露ツカハスの字之此字をやる
えつらいてる やるを心得二句去るなり しつるきとらむ
つらてて二去し を前徒ツントウシ 八三のかし○嵩ツタ 尾に二ツ之折之
去げるとも前へは 折りて妻れ在る ここの季乃
るれたる余の見れるらる折に折々用ゐる
(ね)
子ネの日 子の日又去べし傘に植物に二句
嫌折に安賎を嫌付句八不嫌○祢ネ宜ギ 神祇之

人倫○念者（ネンジヤ）恋なり人倫也○寝（ヨル）の字 四ぬる ねる 寝 井なとハ伏なるか、

し寝の字にて夜とくしてなごし 夕秋の様なハ七句迄傘に立ん

しなるもそれにて云て一以上五ツ之寝とぬる閨 眠る 寝る七句迄 蝶な

のぬるなのみ五二句迄べしてるの○鼠（ネヅミ）ねずみ之鼠犬、鼠床

ぬるとして宿のねるとおもえてなる○ 戸鼠 つけ なども

りて四句○閨（ネヤ）に ねるぬる 皆毛句迄○眠（ネブル）に 起臥寝

ならべし 傘、閨二ツなり 以下二句なり

○寝（ヨル）なりに一虫三獣○根（ネ） 男採根 ゑびゑの根の字八之根

面迄○ 一ねむる節なり ならてそ之陰根男と根などハ

○音（ネ）に 三声 風鈴（ドキ）○猫（ネコ）一疋まびのほかに面迄で云

二句 なくて又一句べし○祢

らひがりなり 獣○額（ネガイ）の糸（イト）秋之七夕、自分の糸に

そのなる之 竹（ナニワ）摂（サツ）の上之ことく

（な）

波（ナミ）の名（ワユ） 波之秋之傘に○雛（ナニワ）波に [illegible]

波字なるなり [illegible]

○藤波（フジナミ）尾花の波なる○波の字二句迄○渚（ナギサ）二流之傘に波

なる 廻とする句迄

○苗代（ナハシロ）夏之植物 小二句之○涙（ナミダ）恋なり 吾句まこ○波の花 波と花とこなる句

作りそ八句まで吹くも帆ス

花のちらくるとちなく八句迄之○涙の露 秋之句 時之句○波 [illegible]

名に有句迄二句之○名古その関（セキ） 山なり○難波に [illegible]

傘二一句二句之○名古その関（セキ） 山あり○雛（ナニ）波に服を

水辺二○涙に 袖の名前 なりけり○波の露 ひきなり○鳴神（ナルカミ）

二句之 なり二句之

神祇、帆之作の字の二句之傘、なる作二門一八らひと出なかて云てあ

ゑびしなりし此名も雷（ライボン）盆などと云句、なる作の裏、なるべし

○おぼろげ来 流人なるえ 植物二句之傘、なり求

のなり 名辺よ八なるえ流人の夏あるハ水辺なる帆之本なる之

物によ姫なり るれの字にもとくして二句 なり

○涙（ナミダ）に人の泣（ナ）てる形ち○涙に袖の白く
○あるれむ（モト）き○嘆（ナゲキ）の本○嘆こゝろ
○慰（ナグサ）む事○中天（ナカソラ）一中のこと
○名（ナ）の字○柄（ナデシコ）二ツの竹ゝく又
○なくる事○名（ナ）の字○二ツ一伞ゝ一伞ゝ人の
表（ナゴリ）○名残（ナゴリ）○虧（ナビク）ゝ伞の形ち
二したゝり二ツ一伞ゝ○又ゝ
ろびくこゝろ○七夕（ナガメ）○
又二ツ一ゝ○涙（ナミダ）○中（ナカ）に
形容の
まゝ○中（ナカ）に

人一り（ナカ）蜂（ハチ）みつ○仲人（ナカウド）○仲立（ナカダチ）人（ウド）仲の
中立の内に一のそく〳〵○仲人（ナカウド）○
傘（カサ）二長（ナガ）傘（カサ）永（ナガ）の字ゝ三ツゝ
又一ツゝ一ゝ傘ゝ○ゝて雨傘ゝ成○
ゝ傘の雪
皆二ツ咲○なをさりに
ゝみて又○ゝ○ありとく
ゝ○那須（ナス）野（ノ）に
○那須（ナス）野（ノ）に
○なをさりに
ありて
ありけるゝ
未（イマ）ゝ
ゝなりむるきひもあるくゝ
ゝ来ゝひもあるくゝ
ゝる○永日（ナガヒ）一ゝ
ゝて

○仲立（ナカダチ）人（ウド）仲の
ゝ二ツ咲○存（ナカ）
ゝ○ありとく
ゝ○那須（ナス）野（ノ）に
○なをさりに
ありて
ありけるゝ
未（イマ）ゝ
ゝなりむるきひもあるくゝ
ゝ来ゝひもあるくゝ
ゝる○永日（ナガヒ）一ゝ
ゝて

かうてうこんの傘二百廿五
傘二成の字ニ句ニ○句ニ
ふれ下のうみとえんてい
貨句・斗をこまかに
○ほしかやうこんのかやうこんの
句の字ニ百歌ム○なりこ
のこうニ百歌ム
句のこけをえて二うを○やとこ
のち二句○人の名人倫ム但刀の語ハ能云の
うり売ニ書ニ
ら 宰人 売信
うり ○らん 傘二百廿五

○らり さんのうこ
ニうみハ七句ニ
ら ○らんてい二百廿五○嵐
(ら) 首 二売膳ニ句ニ ○室の戸 人言ニ売ニ能スニ
ざニうえ寺ハ七句廿傘ム○室の八鴻山ニ能ス水辺ニ能ス
室の戸ニ室の字ハ戸ニ一ハ名ニ 傘ム二五一ハ名ニ
云一説ハ人家の ○村 唐ニ云
竈ニうセり 枝村ニ
村句 ○胸 ○迎
ニく

○武蔵野(ムサシノ)にかぎらず仏意の所あり。たくりめく案〻むさし野ハ月ふハ
なやこされ其の趣のつきもこれより歌もこれより
叶ふ事のすゝき葉革の嘉く ○むぐら 雑也 むぐらにて八重葎 傘ニ嫌二句 系の類木又のを
一名律の類一季無一説一名雲の類一此内むぐらと照らすへし ○梅一段 梅
梅の名ハ嚢にあそし傘に数式に二段に五句の嫌の内梅入られ
こう能にハ ○梅漬(ムメツケ) 折千 極物と 村の字二句へ
ころくし ○群(ムラカル)に 傘に嫌ぶる
一聯集ろこく 嫌あり ○葎(ムグラ)の宿(ヤド) 植物之雑之傘にむらかる一
ろ去ての一句へし ○筵(ムシロ) 二法の筵一帆筵一傘に筵二代分 小えむらに一以上二つへし
○筵 一名宮むし ろ一以上二つへ ○筵 所らへ法の筵
しろ筵ときに帆むしろ ○埋木(ムモレ) 二句へ うもる物に ○馬(ムマ) 二 筋二るへ
おハ取らずほかに 葬の筵とかも 子ふ物初の経
○むまに 歌のうまむけに帰七句嫌るの我ニしまいかち物の釈
いづれも嫌初の我の何斗七句嫌 鞍ろ山七句鞍の字

おしひろがくゆうるいふしるホハこ句嫌 ○むらまり ちろて
鞍鞭(クツアブミ) ホ七句嫌るの我にしに車舟(ムマフネ)に似る
ゑどの類 ○牟婁(ムマヤ)るあ物生 ○胸の霧(キリ) 病之染物に二句
ミにし類 縁に雑の類 ゐるかり
○鼯鼠(ムササビ) 称ふし雑く傘にむさゝび一 ○鞭(ムチウツ) 女に 衣の字 二句し ○む
嘯雞らとばしも去今獣之 二句し
○むしの 縁も染物に二句へ 実案。むしの事かつだくて初に
翁の物 もるらく成句へ打もかるべし 染物にハおもし
この嫌る意 ○生らしに 宮下の嫌生衣 ○六の名紀 字られ七句嫌傘に
ろぞし 宮下しかし
あらやの門の配種物有感にも ○息子(ムスコ)に むすめ面 ○聟(ムコ)
行かろそめりあくこ句にし をきらふ
言てれてむと ○無想(ムサウ) 霊夢作紙 ○麦飯(ムギメシ)の類之
のハ言つるく 夢何も 名を
ゆも祝ス ○虫(ムシ) 只二打虫 程虫みの虫木の内に二句れにおとをきらふ
きりしもそろかりろハむしいつもるでし云れ

うろ虫のやうなる虫みの虫ともなる虫脇の虫ともなる虫のやうなる虫のやうなるもの〇武蔵の引

(う)〇蒼(モキ)にをきて〇蒼(モキ)の字八つくりて茅冠(クサカンムリ)也〇海(ウミ)二名あり二海ともにうみの通名なり〇鞆(トモ)舟(フナ)

〇そばの字八つくりて麥冠(ムギカンムリ)也〇鞆(トモ)舟(フナ)にて船(フナ)の事〇焚(ウグイス)二

(ウ)千ともに傘(キヌガサ)一名を蓋(キヌ)と云〇鞆(トモ)舟(フナ)を艫(トモ)とも舳(ヘサキ)とも艫舳(トモヘサキ)ともいふ

の字は此の門二あり一は百千ともに用ゆ〇鞆(トモ)

ホ此文勢別なるやうなれ共傘こうさの字ともなれバ此文勢にて通ずるなり〇うた称の字

をはぶきこの説なるべし〇鶯(ウグヒス)の声(コエ)ホケキヤウとなくなどいふ事なり〇鶯(ウグヒス)の屎(クソ)

傘こうさの字ハ竹冠(タケカンムリ)也〇鶯(ウグヒス)の巣(ス)

中このみ(ウ)ろくこうおれバ張るの事也〇鶯(ウグヒス)の毛(ケ)

衣こうハ五句し

○植の字 ましてかゝらで二 植字の枝又は三し ○薄中(ウスナカ) 嫌とも但句 ○う
津るにうつる二句去傘ニうつるの字ハうつるハおもくて二
植るに植ゑうつるとうつるとをと句去うつるり
○牛(ウシ)一丑一○うへの字 去也但句嫌とす ○白(ウラ) 去也
うひ又 ○うやまんうへの事 ○うきわざ 仏ニ仏法の事
去べし
○浮木(ウキキ) 植物也 傘ニ浮木一つ 去べし ○埋火(ウヅミビ) 仏法の事
傘ニ植の字 ○斎に 儀(ウタゲ)七句去 事に ○謡(ウタイ)に
用ふる ひびき うつるかおり
○謳(ウタ) 論のうつる西ニ句 ○若に 細冊(タンザク) 面 ○うす
能又 ひびき
ことの 苔の事去の内之苔去の事去苔の字ニ
向ともうの のうつるもの

○上(ウハ)れ のみ 二句去 傘ニうへの字 ○う紀母 去の字
かへって 二句去 ○二句去
傘ニ植の字去ても浮世 ○憂(ウキ)に ゆうきかけき
述懐又去の世うし うれしく つき
書也 ○うぶや(ウブヤ) 産屋に二句去傘ニ生死の事 ○う
一句去 ゆうつす事の中に一句去 浮世の字也 傘ニ
子 述懐 ○うやめ 傘の字山の中 ○根(ウコン)
嫌又 うへの字ハ 二句去
四十 去べし 傘ニ去述懐で 二句 ○うか浮き
内一八述懐去 去ともよし 嫌 ○裏(ウラ)
にあし ○うちあひ 去の字 此枚の字 二句去
ら八嫌 ○うちあひ 去の字二句去
○うらかなしまれ うき 傘ニうつるもの ○うらみ うら みつ
去の 法ひて 八七句去 此 嫌 ○うらみ
うつるもの 二句去 ○庵(ウ)言に 誠(マコト)二 句去 ○腕(ウデ)に 手七句去 うつる

うたがはし○うつしゑ○空穂（ウツボ）矢を入るゝ器
うつり
○売（ウル）の字四つ也○羸（ウラ）一位も出されど
だれそれ題ついて枯たるを衰枯と斗いひて露の原庭
などの文字を入るゝ趣向二句ともに枯と一又秋なりの句なるか
いづれもよくみるべし名され
これ等は皆ことを入てよろし
㋵
居（イ）もりの声よろし色々あまた有るの字に二句まで出る
ひさしあれハ血えびもん○居（イル）の血をバ女女の詞とよむ
ゆるしよろし云　　　　の字ハ二句に出て八々傘に居
しょうとして○井　只二句二ヶ所ともにのみの句にて
二句あり　　　　揃ひなどるハ二句を本のみるなり
○亥も紀一小寒にゑらて入て○猪只一折に傘に枝
　　　　　　　　　　　二十句にて出る

独名は人の名に粘ひもみの意なれども○衬場（イバ）もしめまし　十月朔日
などは　かく　ハ今一かくべし
にもバ後へ天子生所なそ
もと呼ばれてきよく
㋨
法（ノリ）仏法法の師法　同じやうに云えて四法ありハ是に
傘にのりに一かたよりて一又仏法の外法令（イ）法
其の法を心によく○のごとく　詞の字二句嫌○野（ノ）は原に二句嫌なり
以上につく　　　　　　　　　　　　　　　　　の原の訛の
京田舎の原などハ不嫌之傘に○野色　中山茂る（シゲル）趣向に二句も傘に
理の字京の字などに皆字去之　　中山の声けるやうなく
○野せ　字紀に扎又○野さ　　沙汰ある祇園は傘に混じ候にて
　　秋になり　　　　　　　　かもまえ仲祇名不之句も
出まるよ一句にこく理り矣○野を（ヤリ）焼きるゝ之野に二句○野分（ノワキ）風の三句の嫌て
のかれ秋と猿月　　　　　二句嫌
のわきのむかし二句傘に嫌ひ秋八七八月也○野宮（ノノミヤ）
吹大風くるにかくゆくなり　　　　　　　京二　二宮

傘に帰也と内一八○後の字前へ入て八○軒の玉水
名所也ならべし
からめる
近し此又○軒 四五傘と軒二のきハ○軒に　望むし
以上二つなり　ほかのしく
○のきの菖蒲 あやめ　ふかめく なるべく○帰れ　四つと○あやめ のどか　ち
う二句也傘と菖蒲二つにて一又うてて○の風に　上の字
ならべくおし云ふへて一以上四なり　云ふへて
也二句○軒の雫　れうかに　玉水　同じの　かり御能く○呑と云ふも　四と生前　のしるて
なり
八句てそへて○能　一能芸能と云ふへて八又あるし　能の服月
又えし　れんの偏と能てして八く偏なり
○野鍛冶　のあづび　句作るを
ありて二○の世　造りや座の句　一
もせがして云也と而も云やすと不外也様と云字　随一て世のやぶれ
不ちきのせがど　ならしに而とも也と　也

(た)老 カイ二句 鉄二本と一人の老二の雪八わる也傘に五人句
鉄木なりと云ふ方八迷腰の御く其の句習ひてあるぬく
八かくてやぬなるべし但其の字八句後の老人あき句ま勝るべくて八ならで
迷腰のならむし此其の字八他の老人なき句ま勝るべく口家
云ても云ふとて○老れ 白髪 以の雪○老れ 蓑 背負句 宗
思ひ合ふし　白色七句也　姓あこし
は八両梅なりし傘と老てむうしあ○老に　なうち云きあ宗
なし八迷腰と句つづうぬゆくべし　なうち宗
かくこの彼後の句後の前もあらずしてなく云句の句三句也
傘て其ま後の彼句後の前もあらずく此八なる其の句に
これ八七句也へし意なるのの句作○老れ　よふひ云句也
なるふ八云ふし姓なりしても　おもふよしの何か
○沖 ヲキ 只一名所と二傘と沖二○奥山 ヲク 一山のおく一傘と奥の字
無し一以上云なり　四つ也し　二ちの
ならくまれ八世のおかし　○尾上 ヲノヱ に　尾の字上の字有と二句也
心の奥も四のかなし　筆子と尾上八七句也傘と

尾上二内一八名〇奥（ヲコ）の字八ツ〇箱（ヲキナ）箱の箱等ふ
ろくろぐ〜 箱木伝も此様に收
〇親（ヲヤ）直情に用ス 〇男（ヲトコ）ちゝて四
ろ斗もりの 十ぢぐ〜
傘に男ご内一八ろんとまりてきて人傘ご〇男（ヲトコ）ちゝて四
りれそのれをとゝちてこみ物
〇甲（カモ）鴨に冷（ひき）ハおろ
り鴨ろくろおを姓名のげやけき〇落葉（ヲチバ）二名下の底
物八仙せゆうてもおをぬぐ〜 だ
とゝくおを姓底ぞをゝく松の落ばを葉く 〇親（ヲヤ）一ろぐ〜
称ーちるろ系ふりちるハ井ふ〜
ろおよ
ふろぐー〇おもかげ
おやをゝ
ふ〇尾（ヲバナ）
ろ〜ふ
傘に底のやまみ花のやなぎく二句ご
傘ご底系のなみやも句ぜ〇おっくて田

物ゆ二句ご傘ーくみてこ句ぜ〜傘ー
句ご一化ゆ一ゆ一化のちをを一仕勢の底萩の
内ご一ゆおゝてゝ紀ゝし落ろ萩のト
りくろおゝ系八ちゝご萩ちげ
傘二句姓但萩のりくろハみをご萩み丸
ろぐごハ月ろ姓
にご句
のゆご〇おのしよ大二句
ちのひ〇おのしよ大二句
河一系ご
ろう〇おぼゆるにも傘ーくひのやうのひのちよやゝ二句ご傘ーとひやゝ
〇面（ヲモカゲ）出一高一面のまも二句姓おゝ系ゆるこよひび
又陰のまも二句ご傘ーとゝ出ろくし
ろれめろ系一切の〇おぼろ汁系ろ月を〇赤（ヲヒ）雀
痛きいゝてけ
おを出ゝみちーご月おご傘ーとゝ〇清（ヲキ）しくおををゝく
いろくさちるろくてこのろ ごゝ〜ぜち

七句んおん四みや○浦に 呉服(ゴフク)二句○大(ヲホ)の字 此しも大句大
ご印なるべし きざしにて 出るにてもある
なく候ふの大の字に太京大津などと云ふ句也○大(キ)とし ごいものとさきふ
大工大名もけげんなるし ござらへ罷
○打(チル) 須賀向し乞よ用○平(ヨガム) 沙伝月日のるゝみえ
これ八二句きこゆる也 (ハイデン)拝殿 礼拝(レイハイ)行(イ)には人○世帯(ヨデ)の数ひ
八文字とし おろむかし 二六ぞし わかろみ妾
これも前と姫ぐし
なくて傘に字とも又庭種○朧月夜(ヲボロツキヨ)に 霞(カスミ)二句之○れも
の内往おそくてなぞし
ひしにおそくて上の字下の字文字が中に○大(キ)神(ミノ)
とて まずし下の句のかや年く
マツリ
祭ぶ 胃月上の午比日
ゝ物の也よし
(く)國(クニ)の字 四ッとえりて みにくしおとして
句と姫ぎく 難(ナン)別 和錐七句姫○字の庵(イホ)

字の下 方何れも 画も 此天祖○字(ク)紙よ 難(ハヤキ)の 鳶(トビ)日あるる
かの紙天字の戸にわくとさへ 句なるしく何ぞ 旦尾し ゝ見
傘に字紙一句の字 嫁(?) 姫一○雲の文 中々の村 種 体(?) 銭
字の字 粋ことらくてとなり
とし姫 傘にまきのゝ人 ○ 雲に まとも この
人傍○雲(クモル)雲 二句姫実の ○ 挟(クナキ)木 ゝ種めいは句
なり
くの 字の也と 姫○皆(クワ) 折くれ 傘 こ皆 二文字の皆なるで
(カサハシ) 雑(?)の字ありつ
雑 かくとくらく 九ぞし ○ もさ
○黒(クロ)の字 四つ○字紙(ガイツ) 旋 種めそ 飛ス ○字紙の字ありの字(?)
にて のとも何か 居和
よ二句○暗延(クサハレ) 種めきて とろかしえ○らるき 生もして 仁かきみ 芸なる 玄人 数之に
なり
二句ん夕○暮(クレ)れてとく 蛇(?) 紙 又 傘と○ 白き 数 何か 数
ハ 春姫 芸字ひなり
(チグサ) 等(?) 字千 種 二句姫
○字の原(ハラ) 草字不姫 芸 千 種 二句姫 ○字村(ムラ) 種 あて 二句ん
三の字くるみ なれ少し 不姫 その字も 村とも

二句○花飛（クヮヒ）難え花のちる事ハ二句嫌ふ事なし 花のちるハ春に成る也 ちる ○掛葉（カケバ）

みえ夕を諸ひ 又ハおちる ○滸月（クヮゲツ）月のよも不嫌 鮎の事なり ○掛（クヮ）二句しげ根 をしいろどの

門に又あつし みれ ○水鶏（クイナ）夏也 ほととぎすに近き傘に 句のつけやうにて二夕ぞし ○熊（クマ）一文

げハ此かたる 熊手ハ合鶴ハ 此かたる ○串柿（クシガキ）秋也 ○くし 鮑（アワビ）生れよ 不嫌 ○梔（クチナシ）

組（クメ）夏之○車（クルマ）只二法の車一名車一年車 寄雨あるべく 春

おハうそれ ○暮れ 夕ざ嫌 ○朝夕とつづきて ○暮秋の

あるべし 二句夕立も二句あるべし ほろよ 生れの 只ざ 車戸車座

暮れ夕に時ハ 二句嫌 ○くりちる 下の事 二句嫌 ○食の字 只之又生れの食初 ○さて二付

○口に 吸ひものなどに二句嫌ひ人の上に云て只之名口 鼻 切口 戸口 口の 口ハそれ 見えよ ものを嫌口 印 春ら茶をむきそめて

いひごとし○謳（クワウ）一古鳥一文章 又云 しし 嫌不らぬ ○墨（クモル）の字 月のかげる 夜のあさ

みどもよ云 よみをくし○位（クラ井）一張 藐云の位など まさしくあるべし ○官位（クワンイ）人倫に 組合 雑にて あるべし 夜のじなど

はつるぐし○ひいふ人倫○掘（クツ）よ 只二句嫌 木履（ボクリ）ハ わくとも ○蜘（クモ）の舞 生れて不嫌 雲の縁 蜘

の波打ちよ あらぬるらし ○蜘手 熊手をもちて 生れの傘に 蜘一文 蜘蛛

○くちなし 穴より出て 嫌○粂（クメ）の仙人 通とうし

ちる へ 前に 二年一去て云ひある ○曲（クキ）山 句の山ならくもいへ一 こそ れ 一

○くもり 嫌 あかき香

悪う 暮れ 二句もし

なくあら ○國（クニ）の海（ウミ）名不え入 伊勢 北海 をはじのあるべしとなす

○社（ヤシロ）二社 宮 社（ミヤ）云 嫌傘 ならハ 社に付て不苦 ○山のはつ

（や）

暁の雲のうちん和なく隠れゆえ ○山姥(ヤマウバ) 山姥雑人例を[illegible]
傘二山のあふらちなり 山のあふの面傘ニ歎冬一[illegible]
○歎冬(ヤマブキ) 山吹花の云又えたし 山の[illegible]
款冬吹花は花一つらんと[illegible]又一[illegible]
落(コキ)れ歎冬と付ても[illegible] [illegible]
いりの神のやうきん葉揺[illegible]
ゑん ○山の辺 植物二 二句 新発經 ○山に [illegible] 二句 經
句律乃[illegible]
○山里(ヤマザト)に 柴(しば)の戸 柴の庵 ○山のまに 樵(キ)ぎ [illegible] 云經 ○山
見るけり
ゆりえ ○山陰(カゲ)に 下葉蛭あめ下[illegible]
と句經 山にして夕かげ 家の字なれ 二句[illegible]
陰一山あり[illegible]陰かへと云て二二人 傘ニ 又山の行[illegible]
二二山の奥[illegible]飛ス 山のあ[illegible]きれも[illegible] 面[illegible]傘ニ山の
みきいりみち ○山柴(シバ) 云て[illegible]山[illegible]山
めくりら[illegible] ○八重(ヤヘ) 八重を

八重家 八重の隠れ[illegible]て[illegible] 哉[illegible]一[illegible] 傘[illegible]
八重と云詞一夜ニ二つ重の字六七句[illegible]云[illegible]文字
と哉そよむ[illegible] ○柳(ヤナギ) 糸柳 柳[illegible]
[illegible]八重も 二[illegible]
夜ニ一秋ニ一冬ニ一[illegible]て[illegible]柳 植[illegible] 八衰ニ
ゑき[illegible]字[illegible]ゆくし[illegible]
○柳に 雪を添へて ○藪(ヤブ) [illegible]一や[illegible]植 ○藪 [illegible]
なし [illegible]くし [illegible]
○宿(ヤド) 二 植ニ一 恋ニ一 折を經やくく[illegible]
[illegible] やどり 客の やどり 八七句 [illegible]
云句經 ○屋形(ヤカタ) 一やかた舟 ○屋(ヤ) ニて[illegible] ○屋の字 [illegible]
[illegible] 又[illegible] 云句經
[illegible]の字 [illegible]八[illegible]
[illegible]の[illegible]職[illegible]や又[illegible]
夕備て[illegible]経[illegible]傘[illegible]云[illegible]一[illegible]
[illegible] 一つ[illegible]七句經 寫 [illegible] 家

二六句嫌ふ○矢（ヤ）　えらみて二之年の矢みること[illegible]し　○矢に弓　ゆみと嫌　年の矢[illegible]

○流鏑馬（ヤブサメ）　[illegible]三句也　○簷（ヤネ）に　[illegible]七句嫌○遣（ヤリ）て　[illegible]

[illegible]一流鏑[illegible]　○疑（ウタガイ）のや　のち二句也[illegible]嫌　○[illegible]山（ヤヨイヤマ）

[illegible]　○うらひのやふで[illegible]　○山路（ヤマヂ）　旅に非ス

○八ころ[illegible]又やさこの[illegible]八まんと云句[illegible]のやうなるべし

（ま）　松に諸嫌○松の門（カド）　松飾之[illegible]○松風二松と風[illegible]

又三○玄風の[illegible]　二句[illegible]○松の[illegible]

[illegible]二句之○松の声　松の[illegible]二句嫌○松に　[illegible]

うら嫌○松のみどり　松の[illegible]

○真（マ）の字　八こまり[illegible]　松の[illegible]二句之○[illegible]葉模（タハ）[illegible]○[illegible]に

[illegible]松の文字入りて八松二句之[illegible]嫌

[illegible]字[illegible]嫌[illegible]良枝名[illegible]

○枕（マクラ）[illegible]嫌○鞠（マリ）一句[illegible]○秣（マグサ）[illegible]

又[illegible]○町（マチ）[illegible]○侍の字　八之内意

二之○[illegible]（マガキ）一[illegible]○まつきて　[illegible]七句

○[illegible]を　人倫之男に七句嫌　○窓（マド）　二[illegible]面[illegible]

眉(マユ)の字(じ)　かやゆ紙ス角ニ紙ス傘日まゆの
字此信く眉の字をそへて云之　○孫(マゴ)
○まし〳〵　胴(ドバ)　胸ニ八二之れを施年日の内ニ八
右書之傘日をう云之
○子ある　○眼(マナコ)　目面施まりけまてきほのかう目
面を施　七夕之眉ニ目まる二云娘まそこ似の字右施
○舞(マイ)一まふ一云てまれ舞つるそこに　○舞(マイ)る　八にも似ニ
云絡て四もそふし舞く足ん二夕　二上まり
まりる八卍　○家(ヤ)の字　面とそへて八をせんて　○其(ソ)花　まそへ入れ二夕
中云二し　云くて八支ちし　施あ落り
丸もふひ立く丸き足之其の丸出うくさ云二し　○祭(マツリ)一
丸きく斉此二白施中のそも二中云くますを
玉を書しそ一書中ニ一　金ニ一れを施
四まりけり玉条りいうくこしし　○松の字　石年
小一扇て買かれ乞も付きこ
一四を二八二行くう

今日二条第二のまつりの○
まつのかハ二百うり

○下名の組北間二百ふ
よりぐらへハ
ふし

○ふのこと

○ふぐい地よ地うる
二百ふ

○うりてさむけきまでうる
のけうまつりし

○下にぐる
二百ふ

○うり
育月のうり

○検校
虫うり

○順城
うりの女郎美娶

○けりふ

名の如く ○袈裟衣（ケサ）　えりもとより二つ折にして肩より懸る ○袋（フクロ）　たもとの口の袋の如くなる物 ○袱紗（フクサ）　一名古帛紗（コフクサ）　白絁二重 ○頭巾（ヅキン）　かぶりもの　二重 ○帛紗（フクサ）　二重

㊄ 古寺（フルテラ）の庭

○古郷（フルサト）　二ツ ○帛紗（フクサ）　二重 ○袋（フクロ）　二ツ ○硯　○筆　○古墨（フルスミ）　○古硯（フルスヾリ）　○古筆（フルフデ）　○古反故（フルホゴ）　○古本（フルホン）　○古机（フルツクエ）　○古屏風（フルビヤウブ）　○古行燈（フルアンドン）　○古提灯（フルチヤウチン）　○古蚊帳（フルカヤ）　○古畳（フルダヽミ）　○古簞笥（フルタンス）　○古長持（フルナガモチ）　○古葛籠（フルツヾラ）　○古鏡（フルカヾミ）　○古櫛（フルクシ）　○古笄（フルカウガイ）　○古簪（フルカンザシ）　○古鋏（フルハサミ）　○古剃刀（フルカミソリ）　○古針（フルハリ）　○古糸（フルイト）　○古綿（フルワタ）　○古帯（フルオビ）　○古着（フルギ）　○古足袋（フルタビ）　○古草履（フルザウリ）　○古下駄（フルゲタ）　○古雪駄（フルセツタ）　○古扇（フルアフギ）　○古団扇（フルウチハ）　○古煙草入（フルタバコイレ）　○古煙管（フルキセル）　○古煙草盆（フルタバコボン）　○古火鉢（フルヒバチ）　○古火箸（フルヒバシ）　○古火消壺（フルヒケツボ）　○古燭台（フルシヨクダイ）　○古燈籠（フルトウロウ）　○古手水鉢（フルテウヅバチ）　○古石塔（フルセキタフ）　○古石仏（フルイシボトケ）　○古石地蔵（フルイシヂザウ）　○古石橋（フルイシバシ）　○古井戸（フルイド）　○古釣瓶（フルツルベ）　○古桶（フルオケ）　○古樽（フルタル）　○古臼（フルウス）　○古杵（フルキネ）　○古鍋（フルナベ）　○古釜（フルカマ）　○古土瓶（フルドビン）　○古茶碗（フルチヤワン）　○古皿（フルサラ）　○古小皿（フルコザラ）　○古鉢（フルハチ）　○古丼（フルドンブリ）　○古箸（フルハシ）　○古膳（フルゼン）　○古折敷（フルヲシキ）　○古重箱（フルヂウバコ）　○古硯箱（フルスヾリバコ）　○古文庫（フルブンコ）　○古状箱（フルジヤウバコ）　○古文箱（フルフミバコ）　○古手箱（フルテバコ）　○古硯蓋（フルスヾリブタ）　○古盆（フルボン）　○古膳棚（フルゼンダナ）　○古戸棚（フルトダナ）　○古箪笥（フルタンス）　○古長持（フルナガモチ）　○古葛籠（フルツヾラ）　○古鏡（フルカヾミ）　○古櫛（フルクシ）　○古笄（フルカウガイ）　○古簪（フルカンザシ）　○古鋏（フルハサミ）　○古剃刀（フルカミソリ）　○古針（フルハリ）　○古糸（フルイト）　○古綿（フルワタ）　○古帯（フルオビ）　○古着（フルギ）　○古足袋（フルタビ）　○古草履（フルザウリ）　○古下駄（フルゲタ）　○古雪駄（フルセツタ）　○古扇（フルアフギ）　○古団扇（フルウチハ）　○古煙草入（フルタバコイレ）　○古煙管（フルキセル）　○古煙草盆（フルタバコボン）　○古火鉢（フルヒバチ）　○古火箸（フルヒバシ）　○古火消壺（フルヒケツボ）　○古燭台（フルシヨクダイ）　○古燈籠（フルトウロウ）　○古手水鉢（フルテウヅバチ）　○古石塔（フルセキタフ）　○古石仏（フルイシボトケ）　○古石地蔵（フルイシヂザウ）　○古石橋（フルイシバシ）　○古井戸（フルイド）　○古釣瓶（フルツルベ）　○古桶（フルオケ）　○古樽（フルタル）　○古臼（フルウス）　○古杵（フルキネ）　○古鍋（フルナベ）　○古釜（フルカマ）　○古土瓶（フルドビン）　○古茶碗（フルチヤワン）　○古皿（フルサラ）　○古小皿（フルコザラ）　○古鉢（フルハチ）　○古丼（フルドンブリ）　○古箸（フルハシ）　○古膳（フルゼン）　○古折敷（フルヲシキ）　○古重箱（フルヂウバコ）　○古硯箱（フルスヾリバコ）　○古文庫（フルブンコ）　○古状箱（フルジヤウバコ）　○古文箱（フルフミバコ）　○古手箱（フルテバコ）　○古硯蓋（フルスヾリブタ）　○古盆（フルボン）　○古膳棚（フルゼンダナ）　○古戸棚（フルトダナ）

枕ものまくらんで寝（ネ）ること ○寝巻（ネマキ）　寝（ネ）る時着（キ）る衣（キヌ）　二重 ○夜具（ヤグ）　ふとん　二重 ○敷布団（シキブトン）　二重 ○掛布団（カケブトン）　二重 ○蚊帳（カヤ）　五張（ハリ）　○蚊遣（カヤリ）　蚊（カ）を遣（ヤ）る ○蚊遣香（カヤリカウ）　○蚊遣火（カヤリビ）　○蚊遣灰（カヤリバヒ）　○蚊遣筒（カヤリヅヽ）　○蚊遣台（カヤリダイ）　○蚊帳釣手（カヤツリテ）　○蚊帳釣草（カヤツリグサ）　○蚊帳釣竿（カヤツリザヲ）　○蚊帳釣鐘（カヤツリガネ）　○蚊帳釣枝（カヤツリエダ）　○蚊帳釣縄（カヤツリナハ）　○蚊帳釣紐（カヤツリヒモ）　○蚊帳釣金（カヤツリガネ）　○蚊帳釣環（カヤツリワ）　○蚊帳釣輪（カヤツリワ）　○蚊帳釣鉤（カヤツリカギ）　○蚊帳釣棒（カヤツリボウ）　○蚊帳釣竹（カヤツリダケ）　○蚊帳釣木（カヤツリキ）　○蚊帳釣糸（カヤツリイト）　○蚊帳釣綿（カヤツリワタ）　○蚊帳釣帯（カヤツリオビ）　○蚊帳釣着（カヤツリギ）　○蚊帳釣足袋（カヤツリタビ）　○蚊帳釣草履（カヤツリザウリ）　○蚊帳釣下駄（カヤツリゲタ）　○蚊帳釣雪駄（カヤツリセツタ）　○蚊帳釣扇（カヤツリアフギ）　○蚊帳釣団扇（カヤツリウチハ）　○蚊帳釣煙草入（カヤツリタバコイレ）　○蚊帳釣煙管（カヤツリキセル）　○蚊帳釣煙草盆（カヤツリタバコボン）　○蚊帳釣火鉢（カヤツリヒバチ）　○蚊帳釣火箸（カヤツリヒバシ）　○蚊帳釣火消壺（カヤツリヒケツボ）　○蚊帳釣燭台（カヤツリシヨクダイ）　○蚊帳釣燈籠（カヤツリトウロウ）　○蚊帳釣手水鉢（カヤツリテウヅバチ）　○蚊帳釣石塔（カヤツリセキタフ）　○蚊帳釣石仏（カヤツリイシボトケ）　○蚊帳釣石地蔵（カヤツリイシヂザウ）　○蚊帳釣石橋（カヤツリイシバシ）　○蚊帳釣井戸（カヤツリイド）　○蚊帳釣釣瓶（カヤツリツルベ）　○蚊帳釣桶（カヤツリオケ）　○蚊帳釣樽（カヤツリタル）　○蚊帳釣臼（カヤツリウス）　○蚊帳釣杵（カヤツリキネ）　○蚊帳釣鍋（カヤツリナベ）　○蚊帳釣釜（カヤツリカマ）　○蚊帳釣土瓶（カヤツリドビン）　○蚊帳釣茶碗（カヤツリチヤワン）　○蚊帳釣皿（カヤツリサラ）　○蚊帳釣小皿（カヤツリコザラ）　○蚊帳釣鉢（カヤツリハチ）　○蚊帳釣丼（カヤツリドンブリ）　○蚊帳釣箸（カヤツリハシ）　○蚊帳釣膳（カヤツリゼン）　○蚊帳釣折敷（カヤツリヲシキ）　○蚊帳釣重箱（カヤツリヂウバコ）　○蚊帳釣硯箱（カヤツリスヾリバコ）　○蚊帳釣文庫（カヤツリブンコ）　○蚊帳釣状箱（カヤツリジヤウバコ）　○蚊帳釣文箱（カヤツリフミバコ）　○蚊帳釣手箱（カヤツリテバコ）　○蚊帳釣硯蓋（カヤツリスヾリブタ）　○蚊帳釣盆（カヤツリボン）　○蚊帳釣膳棚（カヤツリゼンダナ）　○蚊帳釣戸棚（カヤツリトダナ）

㊅ 舟

舟（フネ）　海（ウミ）や川（カハ）を渡（ワタ）る物（モノ）　○舟（フネ）　海（ウミ）や川（カハ）を渡（ワタ）る事（コト）　○舟（フネ）の名（ナ）　舟（フネ）の名（ナ）の如（ゴト）く天（テン）の川（カハ）や○舟（フネ）　五（イツ）つ乗（ノ）る ○艪（ロ）　一挺（チヤウ）　二挺（チヤウ）　又一（マタヒト）挺（チヤウ）　○艪杭（ログヒ）　艪（ロ）を懸（カケ）る杭（クヒ）　二ツ ○艪綱（ロヅナ）　艪（ロ）を繋（ツナ）ぐ綱（ツナ）　○艪櫂（ロカイ）　艪（ロ）と櫂（カイ）と ○櫂（カイ）　○舵（カヂ）　舟（フネ）を左右（サユウ）へ向（ムケ）る ○舵木（カヂキ）　舵（カヂ）の柄（エ）の木（キ）　○舵柄（カヂエ）　舵（カヂ）の柄（エ）　○舵輪（カヂワ）　舵（カヂ）の輪（ワ）　○碇（イカリ）　舟（フネ）を留（トヾ）むる物（モノ）　○碇綱（イカリヅナ）　碇（イカリ）の綱（ツナ）　○碇石（イカリイシ）　碇（イカリ）の石（イシ）　○碇綱巻（イカリヅナマキ）　碇綱（イカリヅナ）を巻（マ）く物（モノ）　○碇綱巻木（イカリヅナマキキ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の木（キ）　○碇綱巻柄（イカリヅナマキエ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の柄（エ）　○碇綱巻輪（イカリヅナマキワ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の輪（ワ）　○碇綱巻綱（イカリヅナマキヅナ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の綱（ツナ）　○碇綱巻縄（イカリヅナマキナハ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の縄（ナハ）　○碇綱巻紐（イカリヅナマキヒモ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の紐（ヒモ）　○碇綱巻金（イカリヅナマキガネ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の金（カネ）　○碇綱巻環（イカリヅナマキワ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の環（ワ）　○碇綱巻輪（イカリヅナマキワ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の輪（ワ）　○碇綱巻鉤（イカリヅナマキカギ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の鉤（カギ）　○碇綱巻棒（イカリヅナマキボウ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の棒（ボウ）　○碇綱巻竹（イカリヅナマキダケ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の竹（タケ）　○碇綱巻木（イカリヅナマキキ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の木（キ）　○碇綱巻糸（イカリヅナマキイト）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の糸（イト）　○碇綱巻綿（イカリヅナマキワタ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の綿（ワタ）　○碇綱巻帯（イカリヅナマキオビ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の帯（オビ）　○碇綱巻着（イカリヅナマキギ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の着（キ）　○碇綱巻足袋（イカリヅナマキタビ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の足袋（タビ）　○碇綱巻草履（イカリヅナマキザウリ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の草履（ザウリ）　○碇綱巻下駄（イカリヅナマキゲタ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の下駄（ゲタ）　○碇綱巻雪駄（イカリヅナマキセツタ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の雪駄（セツタ）　○碇綱巻扇（イカリヅナマキアフギ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の扇（アフギ）　○碇綱巻団扇（イカリヅナマキウチハ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の団扇（ウチハ）　○碇綱巻煙草入（イカリヅナマキタバコイレ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の煙草入（タバコイレ）　○碇綱巻煙管（イカリヅナマキキセル）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の煙管（キセル）　○碇綱巻煙草盆（イカリヅナマキタバコボン）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の煙草盆（タバコボン）　○碇綱巻火鉢（イカリヅナマキヒバチ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の火鉢（ヒバチ）　○碇綱巻火箸（イカリヅナマキヒバシ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の火箸（ヒバシ）　○碇綱巻火消壺（イカリヅナマキヒケツボ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の火消壺（ヒケツボ）　○碇綱巻燭台（イカリヅナマキシヨクダイ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の燭台（シヨクダイ）　○碇綱巻燈籠（イカリヅナマキトウロウ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の燈籠（トウロウ）　○碇綱巻手水鉢（イカリヅナマキテウヅバチ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の手水鉢（テウヅバチ）　○碇綱巻石塔（イカリヅナマキセキタフ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の石塔（セキタフ）　○碇綱巻石仏（イカリヅナマキイシボトケ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の石仏（イシボトケ）　○碇綱巻石地蔵（イカリヅナマキイシヂザウ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の石地蔵（イシヂザウ）　○碇綱巻石橋（イカリヅナマキイシバシ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の石橋（イシバシ）　○碇綱巻井戸（イカリヅナマキイド）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の井戸（イド）　○碇綱巻釣瓶（イカリヅナマキツルベ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の釣瓶（ツルベ）　○碇綱巻桶（イカリヅナマキオケ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の桶（オケ）　○碇綱巻樽（イカリヅナマキタル）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の樽（タル）　○碇綱巻臼（イカリヅナマキウス）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の臼（ウス）　○碇綱巻杵（イカリヅナマキキネ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の杵（キネ）　○碇綱巻鍋（イカリヅナマキナベ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の鍋（ナベ）　○碇綱巻釜（イカリヅナマキカマ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の釜（カマ）　○碇綱巻土瓶（イカリヅナマキドビン）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の土瓶（ドビン）　○碇綱巻茶碗（イカリヅナマキチヤワン）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の茶碗（チヤワン）　○碇綱巻皿（イカリヅナマキサラ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の皿（サラ）　○碇綱巻小皿（イカリヅナマキコザラ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の小皿（コザラ）　○碇綱巻鉢（イカリヅナマキハチ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の鉢（ハチ）　○碇綱巻丼（イカリヅナマキドンブリ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の丼（ドンブリ）　○碇綱巻箸（イカリヅナマキハシ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の箸（ハシ）　○碇綱巻膳（イカリヅナマキゼン）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の膳（ゼン）　○碇綱巻折敷（イカリヅナマキヲシキ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の折敷（ヲシキ）　○碇綱巻重箱（イカリヅナマキヂウバコ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の重箱（ヂウバコ）　○碇綱巻硯箱（イカリヅナマキスヾリバコ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の硯箱（スヾリバコ）　○碇綱巻文庫（イカリヅナマキブンコ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の文庫（ブンコ）　○碇綱巻状箱（イカリヅナマキジヤウバコ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の状箱（ジヤウバコ）　○碇綱巻文箱（イカリヅナマキフミバコ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の文箱（フミバコ）　○碇綱巻手箱（イカリヅナマキテバコ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の手箱（テバコ）　○碇綱巻硯蓋（イカリヅナマキスヾリブタ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の硯蓋（スヾリブタ）　○碇綱巻盆（イカリヅナマキボン）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の盆（ボン）　○碇綱巻膳棚（イカリヅナマキゼンダナ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の膳棚（ゼンダナ）　○碇綱巻戸棚（イカリヅナマキトダナ）　碇綱巻（イカリヅナマキ）の戸棚（トダナ）

と姫隠のはしきハ○冬ぐれの芦(アシ)田(タ)鶴(ヅル)[illegible]
極物の辺たに二字姫[illegible]
らしを○姉のあれ 天山 二字姫○河 づけ 夕姫 [illegible]○ 水ぐき[illegible]
姫
風二字姫 物ハ二字之書ハ七白姫 降の字 吹の字 二字書
吹とも書之 傘に 降の字ハ 田を姫之
○文(フケル) と斗とし 取字と [illegible] 田を姫 取の文字 [illegible]
秋文人の部 [illegible] ハ内しる [illegible] 傘と字の字 取とも書て二字
なる [illegible] 二字姫○卦(フス) ふし 不姫 取字 字(タタビ)○ 斜(フト) 一勝と
一字二行れ [illegible] 姫 [illegible] 傘て 一勝る [illegible] 文(フグルマ)[illegible]
字八二斗 [illegible] 傘と [illegible] 一みを字に一画を [illegible]
勝文ても [illegible] [illegible]○文に [illegible] 姫傘 [illegible] 姫
[illegible] 文一行 [illegible]
○筆(フデ) 一 [illegible] 一筆 [illegible] 傘に○筆に [illegible]
筆一ひら [illegible] 文一 書物 [illegible]

二字 ○ぶりつみ 振の字二 二白姫○留(フヘ) [illegible]
○筆れ跡 [illegible] 姫傘 白字の [illegible] 一筆 [illegible]
○鞭(フチ) [illegible] 二○風(フ) 風二字姫 風 [illegible]
風呂一めやの [illegible] ○風呂に [illegible] 流 [illegible] 二字 ○風 [illegible]
[illegible] ○振舞(フルマイ) [illegible] 受 ○ふく 芦 [illegible]
[illegible] ○藤(フヂ) [illegible] 二字 ○藤
[illegible] ○(フクロウ) [illegible] ○武士(ブシ) 人の [illegible] 武 [illegible]
○蒲団(フトン) [illegible] ○藤波(フヂナミ) 氷辺に [illegible] ○降(フル)の字八に [illegible] 字
[illegible] 笛とみて 風 [illegible] 姫 [illegible]
[illegible] 字風の字に二字 [illegible]

こ

心誠（コヽロマコト）うちさし二句也 ○権現（ゴンゲン）出拝也 ○心の月 三夜也秋ならぬ人は ○心の杉 秋に非ス好色の事をいふ文 三句去二句也 すまる心をもいふ心の字 五六句隔 ○心の花 西行之人也二句也 ○心化桜 桜に非ス好色の心に用ゆる ○心の駒 心の儀をも生類に非ス傘曰心乃うつりやすきをいふ ○心の友 但人倫也句 許さる ○心の闇 秋に非ス くちの心を云 ○子 一句 獣の子二ついに 又二句去也 ○子に 生類の子七句隔竹の子ハ三句隔之 傘曰子に竹のこゝのこ 竹と八句去と嫌 一し 会子 ... ○子を廻む 子ハ ... ○子に むすこ ... 句也 ○ 仏事の座に面と嫌 ○ 古筆（コヒツ） 扇面 ... の古の字 面八句の内に ... ○詞（コトバ）の ... ○木の葉衣

うへ ... 二句也 ○木の葉れ綱 このはれ ... ○この葉ちるに 多く ... ○木の葉に 木の葉 ... ○声（コヘ）に ... 新しく ... ○木末（コズヘ） ... 木の字 ○木末の秋 末の ... 二句也 ○梢 ... 末の字 ... 三句也 ○九重（コヽノヘ） 都（ミヤコ） ... 会曰九重とは ... ○衣（コロモ） 三句去 ... 名所に非ス ... 九重 ... 九文字八ヘ内二ッ ... 七句去 ... 二句 ...

○苔の袂(コケノタモト)うへ物に非ス 衣裳に用ゆ ○苔の衣(コロモ)時の衣にうへ物 非ス

○苔筵(ムシロ)うへ物に非ス 衣裳に非ス也 ○こけの戸

苔の庭に入物也 ○苔猿(サル)うへ物 非ス ○この葉さる

本朝天狗 ... ○木枯(コガラシ)只一句うへ物に非ス 一句 ... 木の葉 ...

三夕の ... ○こがらしに 木の葉のちりし ... ○言(コト)

の葉に 言ふ ○ことの葉のちりし ... うへ物

○詞(コトバ)二ことのは ... 又 ... ○夜酣(コ) ... ○詞(コト)

○ ... ○こし地に ...

○氷(コホリ)二ごほりひ一氷柱一こほりひ一氷二句 ... 一氷五之内一八 ... 二句

氷室(ヒムロ)... ○氷に 月 ... ○去年(コゾ)二句 ことし

五の ... 二去年(コゾ)に ... ○戀種(コヒクサ)... 二句 ...

... ○頃(コロ)の字 ... 二句 ... 八 ... 日本二句 ... ○此お

... 二句 ... ○執(コントン) ... ○後家(ゴケ)

好室(コウシツ)人倫 ... ○乞食(コジキ)人倫 ... ○胡に ... の字

○ ... に ... ○諺(コトワザ)に 胡あまの ... 二

句 ○言(コトバ)に ... 付句も ○こてかし ... の ... 二句

付句十し○昆布(コブ)らかむにくハ○こぶり鮒(フナ) 辺
と嫌 ゑ辺ゟ嫌ふ
ゟ外又水辺○ことゞに 可嫌○玉の緒に 可嫌 の雪
七句嫌○三句嫌
祝言と○菰 捨あし 可嫌○巨燵(コタツ)に 冬七句嫌 夜分ハ打越を嫌ふ○小鷹(コタカ)
言葉也
柞(ナ)弓 秋く植り 可嫌(ヒ)ハ近○戀(コヒ)の字 四し 恋く きらひ付ける
の字をつけ 花同前をきらふの
ゑり うつる二○碁に 青柳山 可嫌○恋の山 羽前の名 [illegible]
うち [illegible] し
大名并用のきゝ [illegible] 恋のつけ [illegible] ○胡蝶(コテウ) 可嫌 [illegible] ○氷の
恋の [illegible]
ゑ [illegible] 流るし ハ○戀の句 春秋の季句 恋の其 秋の句付 又平句の [illegible]
秋の句付へうつす 同 [illegible] 恋の句を○ [illegible]
[illegible] 一返ニ

千句ニ [illegible] ハ
ニ [illegible] し
(え) 榎(エノキ) 二句去○江 只二句去ニ二任の江○箙(エビラ) 夫而をきらの ○
縁に 水辺えん縫えんを嫌ふ 外の内 小二年 [illegible] ○夷(エビス)
[illegible] 人倫 傘 ゝ 夷一 [illegible] 秋の [illegible] 三 [illegible] 一 [illegible] 八
[illegible] 人倫 [illegible] の [illegible] 打越ヲ [illegible] り
(て) 天子(テンシ) 部王人倫○天竺(テンヂク) 名 [illegible] ○天狗(テング)
のかく 又銭可嫌
弥 紙 [illegible] 但○天の字 [illegible] 天下も井○天に 二
[illegible] 経 [illegible]
内 嫌 [illegible] ○天に [illegible] 天台山 [illegible] ○天 [illegible] 水辺
七句嫌 [illegible] 三句 [illegible] [illegible]
○手(テ)の字 八ヶ色と嫌 傘ゝ○手に [illegible] 七句嫌傘
[illegible] ハ [illegible] し に [illegible]

あつま振ひ此詞しあつまやに東

此海[illegible]

〇嵐山（アラシヤマ）

〇朝月（アサホラケ）

〇暁（アカツキ）一[illegible]

〇淡路（アハヂ）に[illegible]

〇[illegible]（アラテニ）二句之

〇有明に[illegible]月

〇有明[illegible]

〇あかつき[illegible]

〇暁[illegible]

〇朝の月 又一[illegible]

〇あふ坂（アフサカ）[illegible]

〇[illegible]（アハテ ハシリ）

〇明暮（クレ）あけくれの[illegible]

〇明暮[illegible]二句之

〇曙（アケボノ）一[illegible]二句之

〇明ぼのに[illegible]

〇東路（アヅマヂ）にあつまやの[illegible]

〇[illegible]二句之

〇青丹吉（アヲニヨシ）[illegible]

〇青柳[illegible]

〇赤に[illegible]丹朱[illegible]

〇[illegible]

〇秋風 一[illegible]二傘三二

〇秋の葉[illegible]

〇跡（アト）の字[illegible]

〇芦（アシ）

〇のへ[illegible]二句之

一あし火ハ一季ノ物一季ノ句ヤ一句も雑と雑傘ニ季ノの事ヲ
以之門一六ろと云ノミてなし、冬の季ノ字ハ四のすく
其ノあり○苫の穂 綿ワタ 秋○苫ノ句 にし火ヵ、なり
辺こし ○苫ノ句 凶 極めと能く
○芦ノ田鶴 極め水辺也不雑 兎角れの ○芦ノ鴨カモ 水辺
物ニ らう云ハ極め水辺なり ○何やらの枕 秋なく之句之
能ス○菖蒲アヤメ 夏ノ辺なり 秋の 何やかやも、水辺也
○温アタヽカに 二句嫌 勝つまきむきを ○暑アツキに 涼しき ○雨 四ニ
一村雨一秋ニ三句二之一霖雨ナガアメ一五月雨あまり一雨みの、雑
雨四の内ハ打と雑傘ニ雨二又雨天なぞみえ、雑
冬の月こら雨ハ ○雨に 其の村雨あお霖雨除嫌雨と
雨のなまき句云く さしふる雨さあ七句なし候
○雨の内に 砂やとめての 雨なべし ○嵐アラシ 二又嵐山なべし傘ニ
嵐ニ之嵐山ハ秋の

冬すれハ之のすく嵐、雨と雑 ○浅茅生アサヂウ 正秋二句之可去
凡秋の わ多くハ凡ニ二句之 一季ハ正秋と能く
傘ニ 茅チカヤの字
云くして四し ○秋の田 雨廉と雑ひて云之雨能く
余と追ふべし何ハ秋ニ云 ○秋さ
むき 雨ハ 秋きニ 肌寒 秋寒などの秋の
きまきなど云をバ二斗もなるべし ○秋の夜
ちよんなる句作なるふハ ○揚アゲ二なび二揚山一
ちきなる秋ハ打と入て雑 うへるもなし ○霰アラレ 打ア 冬雪
何よれ降 雪など降ゆく打と雑 霰雪ハ打也二句 傘ニ霰山一
霰なりより一霰打和原一のかに降の霰文有皆打と雑打よれ
地のなきき霰雪降の
打とも思ふなり類なり ○霰のきゆるなき
云なし ○何をども着モノ
なるべし但雨様こ ○商人アキナイ 一打きし ○麻衣 ○網代アジロ
二打ニ又雨と雑代ニハ二句之 ○網アミ 水辺く 雪秋揚ニ仕立てらバ
何ども秋あり 打辺ニ能久あるよりむなんハ

○油代の属 二百文 ○ひのくま 人偏に百 ○主(アルジ) ○あつまり(アツマリ)
○人のさわぎ ○さ 里神楽 ○汚 ニ点 傘ニ点 ○五郷(ゴガウ)
○さゞら石 小のみ二百 ○散茶(サンチヤ)

○催馬楽(サイバラ) ○寒(サム)さ ○桜田 ○佐保姫(サホヒメ) ○左の字 ○撮女(サクラ)
○咲(サク)く ○笹

[illegible]傘と云ふ○毎年竹の子の出る時分に雨ふりつゞく事あり俗に竹の子梅雨と云ふ○山梔 くちなし 山梔の花は山茶の花の如くにて白し実は黄色にして熟しても口あかず○雲の足 雲の足早きときは雨晴る兆なり○雨脚 雨足ともいふ雨降る時の雨の筋の見ゆるを云ふ○漏 雨の漏るをいふ○座頭鳥 人倫ごとく物をいふ鳥なり○猿 猿は一ツ申一ツ庚申ともに猿の日をいふ○さつき 五月の事○俵の字 二ツ半ともに○青

梅 一名の白梅の白しろく咲出るを云ふ○青梅 青梅は五月の初の頃より実の出来るを云ふ○梅雨 梅雨は五月の内二十日ばかり降続くをいふ○梅ずし 梅ずしは黄色になりたるを漬るなり○梅干 梅干は青梅を漬て干すなり○梅酢 梅酢は梅ずしを漬たる酢なり○梅酒 梅酒は青梅を漬たる酒なり○竹刀 竹刀は竹にて作りたる刀なり○竹筒 竹筒は竹にて作りたる筒なり○竹馬 竹馬は竹にて作りたる馬なり○竹箒 竹箒は竹にて作りたる箒なり○竹の子 竹の子は竹の生出たるを云ふ○竹の子笠 竹の子笠は竹の子の形の如くにて作りたる笠なり○竹の子羽織 竹の子羽織は竹の子の形の如くにて作りたる羽織なり○竹の子頭巾 竹の子頭巾は竹の子の形の如くにて作りたる頭巾なり○竹の子合羽 竹の子合羽は竹の子の形の如くにて作りたる合羽なり○竹の子笠 竹の子笠は竹の子の形の如くにて作りたる笠なり○竹の子羽織 竹の子羽織は竹の子の形の如くにて作りたる羽織なり○竹の子頭巾 竹の子頭巾は竹の子の形の如くにて作りたる頭巾なり○竹の子合羽 竹の子合羽は竹の子の形の如くにて作りたる合羽なり

き 祇園會の山 山舟ともに作りものをなす○起請 牛玉紙をもつて

○行人 なき身なり おとなひ可嫌 ○きぬた 只二 ○岸 只一二句去 水辺二 うのししに
表にあるべし 傘に ○君 二大君のかうし人倫と述たる二の事なと折を嫌 なき
みきしも四の内之 忌の君又二人倫も述たる折を嫌ふ
君君といふハ表にあるへし 君を八七句
嫌ふ君二のうちに又恋君をへし ○木曽に 木のまき 二句嫌
○木々 木 みえつるハ一句にあるへし ○禁中 キンチウ 内裏 大内 雲井なとに
小野をうつてなつし 傘に 折一句ニ二旗にあるり 他国の折
月の折 但月さへ如此八月の折ハ又ハ折ニ 城か 出ハハ折 ニて月
章 折と出ハ ハの京 折 鄙 上京 下京 旧 折 遷都 新京 平
安 洛陽 都 中 洛外 東京 西京 なとの折ハ一句より上四之
折を嫌 九重 城 折ハ九重 折に 国を嫌 京 洛の三
字ハあるてても 折 四の内之折を嫌ふへし ○黄 キ の
字 四之 ○菊 キク 云之 下二 傘に 草の葉いつきも草ハ不
草門 木ハえぬも秋こと 述たるの折を

ミてに二のうちか一かへ草の ... 秋
をきまの葉いてハ 秋 ... ○草のかうし
みくしき色を
あさくハ秋 ○菊月 二句去 ○菊の渕 フチ 水辺 なり
○几帳 キチヤウ に 木二句嫌 傘に几帳に 木のまと不嫌 木のひたき
又 ... ○樵 キコリ 人倫に木のまき
二句嫌 ○北 キタ 二水辺 山 ... ここて えて 又二 ○金銀 一句に
ここに ○白 ○ハ ... ○金 に 金沙 金屏風 山 ... ○亀甲 ハウ 白に
を嫌 ... ○伽羅 キヤラ 沈香 折を嫌 ○経 キヤウ 一名 ...
... 碪 キヌタ 一衣ヲ打 又秋へし 布 衣なと 二句之 ...
へし ○ 傘に ... 二句 ... 折も ...
しのひこきぬの ○こきぬ ... 表に ... 二句 傘に
さこハ二句去へし ... 只一又...

のうもこまぬく　こころ
金　こがねのごとき　のみ　ものの　ふくろ
ハ　花のこまめく　もゝ　ハ　ゆく
こんとう　白めうがごとく　ひ　夜のまこと　月　ハ　ものの
○きちきち　月次の月　○　志ゝ　さゝ　ものうきこと
○　狐　十ひき　ものうこと　一ひき　ハ　狐川　ハ　狐の
こと　くく　ゆく　○　ゆく　こと　ものうし
海　夜の海　ものの　行　ゆく　過　ゆく　○　雲の
しつかなること　ごとし　傘　ものうし　○　雲間　一きり
一ひき　時　一ぴき　一ぴき　雲　ハ　ものうし　○　客人
○　蜂　一葉　こと　ものうし　○　蟋蟀　字の　ごとし　○
○　こゝろ　こと　ものうし　一ぴき　ハ　ものうし
○　桐　秋　ハ　一ぴき　ものうし　○　香　ものうし
秋も　種　ものうし　一枝　ハ　ものうし　一ぴき　ハ　ものうし
一ぴき　ハ　ものうし　○　衣　ものうし
⑩　ゆく　こと　ものうし

○雪 四之御せこの雪ハ定り作て月花に比ぶるし此外に冬季のもの也六月の雪富士の雪すべて新式傘に
雪五の内一ハ定し替りて立べし雪の字数ハ
雪川雪も冬の万葉ニも出所也
みだれあへ(?)と吹雪
降るも冬也○雪の花ハ雪の花也○雪に
○雪の花れ冬の花ニ同し○夕の字
八々夕べ又二ニ傘に夕の字五円一せきとおりよみ手て
ごし夕ア二句ちがひと嫌夕の字い上八之おりよみてハ
七句○夕立一夕つるかるとえとべし夕の字三句嫌
ある○夕立のやみこの字とも二句去り嫌
○夕川ハ夕の字立の字也○白雨ハ白雨ハ夕立の
夕立を白雨と書るハ天満の歌曲巳法橋山谷が詩に
とかきれしハ即ち執筆の附書嫌し外字こ
あろう嫌でむろし○夕ま暮も夕の字古の
のとくもとべきなり○ゆふばれ
生きも嫌

外紙に飛ぶ傘に
かがりのをあり○夕月一折とえて賞翫月なくして又月べ
○夕月 かこに飛スタアこ出秋の季年の 傘こ句隔えてこ近なくし
暮光の季 何れも二句去り○夕に 月かい日気
らしの季○夕暮一夕も暮と 夜こ不嫌月く
ハ二句く 又嫌べし○夕暮に 此部の付句ハ
○夕闇 夕の字此かく夕の字こ三句暮の字ニハ 不嫌夜銭嫌
二句傘こ月の字こ面を嫌ふ○夕顔の宿
極かく傘こ花とあくても夜くひやうえんひさ花かくべるど
のうち出ちきは上二去べし夕ら卯の夕此字八のかこ
○弓 ユミ 云くて二傘こ之く円一去りと
おりよみて出し何れも去る嫌○弓に 夜二句嫌
○ゆふけに嫌 手二句○床 ユカ あくり飛えと
秋との文字入てハ○夏う津 ニハあくりくし○夢 ユメ 三之五句
悪よあり也し あくこ飛えてもひゆめ小住 うつる句あらう恋とうくり

組入てハうつゝより○夢にうつゝねさめさむるちゝ○夢の世
何れも二句ニ
○夢に国
○行に
○行末
○ゆくゑに
○行衛に
○湯山
○湯
○湯女
○湯起請
○湯起請

(め)

○夕山
○夕川
名所とく
○月

○月に
○盲人に
○月の覚に
○女まいさうひ
○眠りに
○めくら絹

(み)

帝
○御幸に
○動
○神子に
○御幣
○己の月の後
○貢物
○宮
○宮に

まゐ佳く来る ○三熊野(ミクマノ)二句去也 嫌ふ法の事 ○御階(ミハシ) 嫌ふ
紛らし七句去 二句さらふべく ○都(ミヤコ)に 宮殿のある
みもしらずにてさへ遠くて去べし 折ゝして嫌ふ ○都(ミヤコ)に さし嫌のふ
句餘所よりかゝりし事にてハ又一句去べし
またしも七句嫌 ○都(ミヤコ) 只二句去也 二ツニ ○都鳥(ミヤコトリ) 水鳥也 嫌ふ物也 勿論
只ならバ二句嫌 ○嶺(ミネ) 只三句去也 嶺ハ 山の名也 壬生(ミブ)忠峯 嫌
○嶺(ミネ) 只二句去也 峯ニ 三門八名所也 常にいふ字ハ 雨
中にて 嫌ふ ○三日月の出る八日月の夜の月 月ニ三日
月ニ季を 去べし ○水にみなと入る事にとりみし ○水(ミ)
ゑてまづ出る事 ○みなれ 張(ミハリ)二句去 ○溝(ミゾ)
水のある名所也 何れも三句去 水辺 名所二
禅用のかく(ケムリ) ○汀(ミギハ) 只一名所也 汀ニ水辺二
○水嶋(ミヅシマ)に 嫌ふ也 二句去 ○汀 汀一名所也二 ○汀 一只

法の御名一句去 傘ニ嫌ふ物也 衣の事何と云嫌ふ也 御形 嫌ふ
菩薩ハ聖の仰せる物也 然れども連歌にハ去
若 ○道(ミチ)に 衣も嫌ふ 山のさへ 傘ニ ○道に 道のちまた
山路あらじ 二句去也 遠嫌ひ ○雲(ミヅレ)に 雪も七句嫌ふ 三句
わけ行も三句嫌ひ 三句去也 三句嫌ひ 雪也 みぞれニ
雨雪のごとく 五句嫌 雪ハ嫌ふ也 ○みぞれ酒
うらかき降物ハ三句去 降物の嫌ふ也 嫌ふ
降物ニ二句 ○蓑(ミノ)に 三句嫌 傘ニ 雨に嫌ふ
季を嫌ふ也 日なり人の名にかゝれ 蓑ハ
三つを嫌 降物ニ何のしみ雨ニハ嫌 嫌ふ ○嬰子(ミドリコ) 緑の事も七句
みなの物 新たなるの事を嫌ふ 嬰子 嫌 傘ニみ
どり子にみどりの事ハ嫌ふ也 ○男(ミ)ハ嫌
あまねの事をもみどりと云ハ名別なり
りて名酒(ミキ) 嫌ふ ○三十(ミソジ) 年(トシ)年の字 ○嶺(ミネ) 嶺ニ七句
二句去

雨ハ上を山とも又日し傘ニ嫌ニ ○見るにうらこやうしこ
る物かしの物ハ面とこさしふ えうらも行れも
二夕雨月も二句とをとミ ○南 二季とも云 ○身作毛 二人傘ニ
嫌ふの文字二句く 一云文二
云ふくて ○短夜 二ハやミ嫌ふ一夏の内一 ○水底に云れ
云く 但夏ニ短を結び去又一二句
松ハ雨迎ニ ○耳 にあらき松ふ云んとも二句の外ニ詰 ○耶に
わすれ 耳の獣のこころハ又云ふべし
霧二句 ○見ゆ月も 月せ句雨
雨ふ

○し

清水やく 云ふ傘ニ清水にきよき水面ト雨清水とき
よきの字替句平雨清水と清水等ハ二之句
雨清ちくも ○白雨 雨ふ 紙之 ○白七字 八之面ニ一之七く
ころもち
とも云て又やく白きてもくものちも句雨にく四つちハ打を
雨色等 水ハもちの物りみとらく餅ニハ二まは別

るし傘ニ去ろ去ろもくはつにいえれも向とく去ろく
八面を雨去ろ去ろもくとも云ふて八七句去く雲大白 白雨天
の物ハもくらも
云句之九のおく ○鳴 只二季ニ傘ニ嫌二句の二以上之の近山
の中名山名りの去いさ紀ハ雨迎平に山物く雨雨清あらとく川名池
名山の国の名ハ大すそも山物の迎て紀く径く清池を見ず
海名山ヶ原遠ヶ名山名室の八之水辺 ○数名山の道 好そ
山物の館くけ物又多し
雨名山の字 ○塩 二嫌雨二打をえて云ふこし雨塩宝の物
同し 塩山紳ハ裏て云ふく塩竈もし雨の
嫌り雨気 ○雨 月もしのし雨去雨しきし月の七し雨
の物雨やく雨之 尤ニ七句雨傘ニ去雨しき月のもの
去同し同びむ去雨面を雨 ○雨山紳 の物名迎種を
去雨すらくらぐ去同二句ちり 不雨ニ家の雨し
○雨屋 物字も二句雨やら人雨も雨字云ろ ○雨物月
山雨 山物名迎尤ニ子とし雨く

かりゆき二句あり〇雲の晴(キレ)見ること〇忍摺(シノブズリ)ことかは[illegible]見えず〇[illegible]を経〇忍ぶ草(シノブクサ)秋之部五月の内也〇忍車(シノビグルマ)[illegible]車のこと也

〇しのぶの山　[illegible]ゆくもまた[illegible]山名にハ二句也〇志は[illegible][illegible]

[illegible]傘に無ハ水辺なり二句まで

[illegible]〇忍　四季[illegible]

〇紫(シバ)　一時[illegible]一宗人一篇[illegible]一傘[illegible]〇椎柴(シイシバ)

〇紫(シガノヤマ)[illegible]〇紫の庵(イホリ)[illegible]

〇志賀山(シガノヤマ)[illegible]〇敷(シキ)四季[illegible]

のなき[illegible]しき[illegible]二句[illegible]傘[illegible]

〇しのぶ[illegible]のさし[illegible]八二句[illegible]〇時分[illegible]八二句[illegible]

[illegible]〇しづか[illegible]

〇しのゝめ[illegible]〇鴫立(?)の[illegible]

[illegible]〇霜(シモ)[illegible]

〇時雨(シグレ)　二[illegible]

〇菖蒲刀(セウブカタナ)　菖蒲[illegible]水辺[illegible]二句[illegible]

○精進（シヤウジン）非時（?）徳之仏ろ神とよるべし　○燭台（シヨクダイ）に嫁ハ火も白　○将棊（シヤウギ）にハ
ご気色を嫁　○尺八に笛表を嫁　○座（ザ）頭…行…二句之　○…
云…鋼…百貨…二句之…ハ…門一ハ…
面を嫁　○下の字　四…げ…てもとく…
ハ別…五の…下…
○下紐（シタヒモ）…
○下帯（シタオビ）…
○上戸（ジヤウゴ）人倫…
○舅（シウト）…二句嫁　姑（シウトメ）…嫁　二句…
○下女（ゲジヨ）…二句之
○白拍子（シラビヤウシ）…
○出家　…人倫

○珠数（ジユズ）大…○嫌（?）に…○寺…
傘…五く　○東雲（シノヽメ）に…二句目…二句之　○白髪（シラガ）一…
○鹿（シカ）二…傘…四…扉…の　○扉の…
○園（ソノ）　佛の…
○芍薬（シヤクヤク）一…○師走（シハス）…師走
(恵)
○絵（ヱ）一…
○絵馬（ヱマ）…○海老（エビ）…

ばを深く禁ず ○憲（エビ）義 酒少許しを迎ふ両の手の内を
の如くふるく 互に拇指（おやゆび）を以て人名を画（カク）し其の内さし示す者（テキ）を猜（サイ）み
すゝめ猜ずれば名別（わかる）れ不者（テキ）東狄（エビス）ろ也（なり）
東東（あづま）東（あづま）雲小秋（あき）の内又一つのごとく
事（こと）ごとく也（なり）すべてとうむ ○衣紋（エモン）
ごとく傘（かさ）と陰門（ほと）所（ところ）をかくし人偏（ニンベン）に衣（ころも）と
うり傘（かさ）一つぐし ○醉（よひ）一両の手（て）ひ一舟（ふね）に
けちらす ○擾（エノ）の賓（まろうど）秋（あき）大（おほ）なる
東（ヒガシ）三年（みとせ）を松（まつ）東（ひがし）ぐし ○ひるぐ外（ほか）に外（ほか）
とくも白（しろ）くうつ二 ○常陸（ヒタチ）帯（おび）
ぐうぐうとして二山（ふたやま）ある
おりとうへてるぐし傘（かさ）と暇（いとま）二人偏（ニンベン）に
ごとく

○他（ヒト）の國（クニ）人のまこと二句昭傘（かさ）と ○獨（ひとり）人偏（ニンベン）に
ちごこいうく人偏（ニンベン）に衣（ころも）傘（かさ）と獨（ひとり）
独のごとく人偏（ニンベン）に蜀（ショク）ぐしうぐし
獨（ひとり）ごと句二文字 ○ひとり如（ごと）
二字昭傘（かさ）等（など）と句 ○ひとり女（をんな）の名（な）を人偏（ニンベン）に
居（ヲル）不 ○日（ひ）に月（つき）のごと日（ひ）月（つき）
昭 ○日（ひ）に月（つき）のごとくふる月（つき）日（ひ）のごとく
ぐ〳〵ふ二句昭日次（ひなみ）の日（ひ）に月（つき）の字
をもち日（ひ）昭（てら）日（ひ）月（つき）をもちうつ二句昭日次（ひなみ）の日（ひ）に月（つき）
射（さす）ごとくうつ傘（かさ）二ツのごとくふいうつ
ちうてよくて日（ひ）月（つき）うつ句（ごと）ぐし ○日待（マチ）外（ほか）ごと
○日（ひ）のまそに門（かど）ごとく舟（ふね）ごとく ○摩（トギ）の代（ヨ）人偏（ニンベン）に
六（むつ）をと斗（ばかり）いく人偏（ニンベン）に ○ひと物（もの）貧（ヒンボウ）をと
いく人偏（ニンベン）に

○日がらし　是ハ日も光るも雨降にも俱につけ申してよろしく
傘ハ日がらしといふ也又蝙蝠とも云ふ
ことに以上三つの字もなしと云ふも別の物にあれば是を用ゆ
こと蝉小折を嫌ふしやうにも用ゆべし
○光（ひかり）月日雷（いなづま）雪月花稲妻仏の類にてよろし　雨を
かくへて八ツ中に弐くし傘と月星と一花句にて一夏隠（げ）
かわりけ是ハ天文にてもよろしく傘にて一花以上三つ（ひかり）と
なりつ八日のことくよろしく天気にて二句とり○夏（げ）
花（かな）人（ひと）春の傘と夏と中八天○一村　一村留などの一文
春の花八八人春の
春の心を竹の一村として二句に字八つ傘と一村
又一村とおくべし○久（ひさ）　久の字も名
も弐ツ二句の傘と久留達寺小二句の　移し久し
くも是にて弐つの字久の字斗八久し
折（を）え隠（）ゆの是八久しと云ふ八光（ひかり）之連（れん）にて始終（）
文字ながら二句に二句になり

○丈（たけ）八九ツ拵笛の丈ハ七句の傘と丈を以上五句にハ竹にも
こはもよし　拵笛の丈ハ五のはごは新式を一座三句也
ほど別にも是を三つの柿の丈四の内なると
是は八つの五の丈と丈は七句去るべし○丈にも二句短く
ゑよ二句ほど
○檜原（ひばら）只一檜垣又ハ立べし傘と
檜の字八二のかるべし○人の名　かくやすらと
ちがふは云のはなすぺし雑を他の大事の人ハ用
べし近くの人を足を為る人を代の家内名前さま
だろう○一葉（ひとは）の舟（ふね）　棹の傘に一葉の名
舟の物に棹を他に○大鏡（おほかゞみ）屋
紙　○屏風（びやうぶ）に　凡二句
ふり　○氷室（ひむろ）に　ひむろうけ[illegible]
七句は傘と夏の句の近く氷にもつるとかしひやうとあるに
ても七句はなるまじひ氷ハひとつあるとほうすれハ
当を短句御句にて二句にしく氷室ハ四月一日より九月
近頃ほ絶されと六月一日ぎうんやして用ゆるゆくな[illegible]

ちくし殊の外よし八雅字等引を嫌之 ○ちくとう引
えらず何ちくしひなの字も嫌ふ
ホ句ヲ半葉かくのごとく ○ひとふる夜 ○雛(ヒイナ)
これハ間二句去し
○ひ ひめ生れよ春也ひな一句の外ハ上二之字の雛も同字
ひく是も之ひなの紅ひなの雛を雑之季ニ二句去
○ひとひらきき ...詞ニ生れ春辺也ニ句也 雑 春 雑
秋 …書…るるの句 ...八句去雑也
○ひやしう 二秋也 傘ニ秋 秋也 ひゆる
ひやく 同字也 秋也 ○ひとへ 雑 夏 ○ひさご
○大紀と詠す 夏也 ○百の字 ニ之 ○楸(ヒサギ) 秋也
一二之句 ... ○引板(ヒタ) 秋也 稲の為にならすものなり
ならし ... 引板の字 句也
...秋の風
...

○も 紅葉(モミヂ) 一句の紅葉一季 樹木ニ一紅葉の樹八なりとも
紅葉を詠 ○紅葉に ... 二句去 松の色 ... 傘
みなりても ○もみぢに 樹木の ○紅葉に ...
秋也 ... 山の色 ... 句去
○藻(モ)にすむ虫 雑 ○もしほ草 ...
秋也 ○もみ ... 秋の傘ニ ...
... ○最上川に ...
句去 ... 二句去
○もれいひ 雑 二句 ○ものの夕 二句去 ○守(モリ)
の字 四 ○股(モモ) ○実(ツク) ... ○物思(モノヲモヒ) ... 二句去
... ○物 ...
入ても ... 二句去 ○物 ...

人偏之物のみならば○紗字に冬帰略之○川跡天象之人偏不能○百
人偏になるべし
千鳥に當る○鵙（モズ）鳴かるゝ 桜西之秋之萩ともいひて八月
を題 ゑりかゝり八月之季に略之
○催（モヨフス）當りかゝりて八○ゆ題し上の句下の句の前に名一つ
四時になるべし つゞ傘に上下比句にいひて
之く○森（モリ）只一名ならば一傘に只二之か 名不ならぬ丸以上之より○百敷（モヽシキ）一百の字八四なり○武士
一武蔵武志武者ならば○もゝしきをかゝる國とみるべし 尚の内に出る
の内に出るよみなり 動（ドウ）震（シン）取漢題なとする
のてなり一首なるべし國名なる書の字八○
なる一つなるべし かゝる句を題
㊝
仙人 人偏に能く山能に能く山のる○蟬（セミ）只一日なし
二句人のるとて之句なり 打を題傘に
二ッなるべし内一ハツ門せをとるべし除くとハ○関（セキ）只二名ならば三
なるべし又せをつくしとハなりなれなります 人月関八

裏になるべし傘に関四の内なるとよみ ○関に狩せ
まみての内に関と斗八句不能なりなす きさ七句
之せく之之一之傘に水をせく宝をせく洞のせく
声をぶきにをせく木の内に二之井を知し二ッの内く○せんと云絶
さらると人洞の字
二句略なり○瀬（セ）句能となて○雪山（セッサン）天竺の名ならば
京都山堂子といふ 四なし 新之山能之
山なりとなります
㊜
住吉（スミヨシ）の神 名は水之傘に住吉にあそれが今辺名
の上 ○末の松 不ある名卯名ならば能ありて新式
故之 名不之枕あ之末の松とり斗に○諏訪（スワ）
め祭（マツリ） 山とあし 奥羽の名をもく
雑之一傘の内に○杉（スギ）ハツ一心の杉又なるべし傘に杉
卯五歳てなりく之 木の名杉を名あり杉木
の内に一○杉の窓（マト）ころ西に能く杉村名を○冷夜（スサマジキ）二之
以上之く ころ ころ 涼しき

夜ニ一秋て ○簾(スダレ)二ツまで一句篭一傘連ニ一ツあれバ俳ニ句篭一
一ツ 句篭あまぐれミ一ツ又篭中あらでの内
二ツ以上 ○洲(ス)と 前七句隔傘ニ洲二 ○菅(スゲ)水辺ニ非ズ傘ニ
二ツ 名所ニ一 夏草一まげ笠
まくらの夢などを篭並ホの内ニ一ツ嫌ふと ○まどころ 居所と
夏草代夏衣なども 吟一句以上ニ至るべし かのやうす
○栖(ス)居二まて宿の居二 ○住家(スミカ) 住の字二句 ○まひかね に任
居所ニ二句ん 家ニ三句ん の
字居所の字の事ニ三句え栖と住 ○墨壺(スミツボ) 墨筆墨染墨棒
去ハ面を嫌ふべし 三句ニ去りて八句もき
ごし眉墨にて翠黛(スイタイ)の山などハ句二去るべし ○涼(スズ)しまて
まくらい難とまりてよむ时ハ墨面を嫌ふあり
冷しき ○冷(スサマ)じまて きまき二句ならしむに ○涼しき道
二句もろう もやうも句まし申 などと云て二升一も
持つわのるまに ろうものやりて
住まむら八雜之 ○薄(ススキ)と呂二尾花一まそろもや
さびし傘ニ篭二打して以上四之かなる

ハ作例をいの祭にまうるゆえ神祇 栖西居之 ○墨(里)深
まくらハやけの説に生る虎まき之宿らし
の袖 凶謡 ○まづまて まきる ○まを紀七れ 末の字二句之
るり 二句え もやすろ
三句之傘に下御(スソノ)より段ニ下の字ニ句 ○捨(スツル)の字 三句去え
まそとくハ前を嫌ひし山前まあてく ○ ... 身を捨る
に田とまつるハ ○まそつるまれ 捨の字
田とまいう申 二句隔 ○まどとくに
どれハ二句 ○炭(スミ)を焼(ヤク) 炭焼ハ海辺山家之 ○拾る笹
に 素湯(スズリ) 之 炭と斗八山家非之
には嫌 ○炭やき傘ハ備之非山家 ○炭一まてやまぬ
どうも好とうとて 傘に去らく 一ごんる
一以上之之 ○住吉と斗ハ海辺ニ非ズ今ノ案ニ水辺之
名所名所は非ズと新式ニあれバ神とらでうずまた傍ぎにても斗ハ
うし、まあ辺るがべし あきらいのおまて山辺をまうときま

うらみ侘しきを任よしまゝの ○まかりにて もくもし
うらはかなり　わかを短くの紫るよ
ヤイヘントシテリヲスヱモハナハダコハクカリ
井辺嚢李幡苦肥とふ細山谷が詩にゐり　法こ雲こいくら
しもなく　雪をまもまちこ給くハよろき付拙ろしいかのしへかより
のちふゆやし出でふさまつ葉にらいふの絵こ言ふの短を　○鈴廉(スダカ)
柔蚕と書く桑と同字なり
の算(セキ)　もじう絵山紀に雁久傘こ廉のじこ八字あるらし
絵の事ハけ戸ちかき文字なれハ両との短
○酛(ス)と一つらぬ桃　○絵虫　二秋之　○硯(スズリ)　一字名の
ろはらぐし　　役の海
まこ　有る
○お(マイ)こりす　その色の　頌え絵の名ぬ中
○村(ス)撲　秋くこゝろ　待とゐるし　こゝろよりけり
○木(スツム)摘花(ハナ)　ろりこゝろつのいの呼りし　七月下旬こ内裏より　満ぐらす
ふ句のかは雛くろ卯と様く　苦く色への名之人の名と　○さそびなし

青帆を紙すおの書文字面に一字ずつ各々　葉の字を
書しく候へく名き泥のましけ字と見えたり
○草木の異名并 引 寿
○がかくはえ字　正月一日ハ禁の　咲茶の中をもさかくしくさ
○初(ハツ)件え字　正月二日内裏　大内や否名との伊字
に上ゆこ　衣（衰）もや人のるれてるかし
○たつ門こ字　　年こまれみくの名を入れこ字
　松　かほらぬ字の名すはぬらし
○千代え字　　氷ふの中かくにうかつ千代え字
　日　うえる気きこそ海国とのなけし
○若葉くさ　佳すや若の糸よの名菊女
　日　ちがし　ここみる人をまね
○根白草　　繍くはさる秋る秘か仕てをよ根白字
　　　　　　　中小川ゆさそ降ゆ

○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○

○時鳥草　時鳥こそや啼つらし垣見とゝき
卯の花　萩咲より山里かけて花の頃いかならん
○顔見草　我思ひ行くて花の顔何といふらし
きそきと　うらみ艸とハ何といふらし
○　うつ草芸とやいふらん志行の
なき草よれ人の絵と誠さう
○良吉草　名艸の色の中よりかやうな茶
杜若　とう袖まされ驚ちる
平家見草　山吹の影ちかゝる雲見艸
なのりそんざんの木　のかれふるのてくわれ乃の
○唐古草　梅し頃ハ昔の宮に庭艸
うち花　咲く花のちりの思ひよ
○寂待草　水うけて秋待ぬるよみそし
夏田　まくらにまうみ露の秋結
○水うけ草　もつくし我田の面か秋結
月　きうけなるて刈　あやにるる

○池見草　新しり花やかしん池みなさ
蓮　源とうしてまゝ葉をひぼく
○春風ノ揺草　なつひきの萩や咲くん夢たる草
とてのた　をしぬ枝うち風の吹れかな
○うき草　萩咲ハ浮のやうくれこく筆
あまりしく　まさ葉まこふ咲ぬまさ
○庭隠水　五月雨やつまん庭の水さうつと
消毒の浮草　りうもかく老の夕暮
○水　空色草　名よハめハ河のきいわるむ草
河し　思ひのうちし　ようろ条浮
○吹　萩草大肉や玉の水ふく香も
あやめ　柳くハちまれひらしてやこん
○光　草　夜の露と心あり夜分りハ
いりり　まえ草　露草の露
○火借草　我も心川　せの波れおくり草
由るのひえ　今のにるまハうまし淡かぬし

○秋立つ日　秋のはつ日
○不知哉丈夫　月出
○名取川　川の名
○名取老人　川高き所を渡る
○旦見る　みちのくあさ
○夜白む　大空ほのぼのあけ
○心ある　小さき
○除蓍　除夜
○手訓　訓
○風新　新たまの年
○風有　有明の月
○神風　神風の伊勢
○夜長　秋
○佐保　佐保山
○紅葉　紅葉
○雲悠　悠々
○冷泡　泡

○松竹
○庭雲
○霞
○思
○夕張
○飛見
○百敷
○うら
○河
○夕
○雨
○秋
○神
○ひさかた
○親

○六月廿日
○雜の部
○夕見草
心
○蚤見草
日
○萌え草
日
○杉見草
日
○物見草
日
○稲見草
日

文化十一甲戌春再板